


エル・サルヴァドル共和国 看護教育強化プロジェクト 計画打合せ調査団報告書

平成10年5月

国際協力事業団
医療協力部

JICA LIBRARY



J 1148253(6)

| |
|-------|
| 医協二 |
| JR |
| 98-19 |

エル・サルヴァドル共和国看護教育強化プロジェクト計画打合せ調査団報告書

平成10年5月

国際協力事業団

05
229
16N

LIBRARY



1148253(6)

エル・サルヴァドル共和国
看護教育強化プロジェクト
計画打合せ調査団報告書

平成10年5月

国際協力事業団
医療協力部

序 文

エル・サルヴァドル共和国看護教育強化プロジェクトは、平成9年6月1日から5年間の協力期間で、同国厚生省と看護学校8校を対象に、適正な人材配置計画のもとで、質の高い看護人材が育成されることを目的に実施しているものです。

平成10年3月、協力開始後約10カ月が経過し、上記技術移転が順調な進捗をみせているところ、国際協力事業団は、本プロジェクト派遣中の専門家の活動状況、エル・サルヴァドル国側の対応等、現状を視察し、プロジェクト実施上の問題点把握と今後の対応策について両国双方で協議することとし、平成10年3月21日から3月30日までの日程で、厚生省看護研修研究センターの田村やよひ所長を団長として、計画打合せ調査団を派遣しました。本報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。

ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に、深甚なる感謝の意を表しますとともに、プロジェクトの効果的な実施のために、今後とも、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成10年5月

国際協力事業団
医療協力部長 福原 毅文



厚生省看護課、看護協会、看護職
能会との協議



合同委員会での協議



ミニッツ署名



プロジェクト専門家のオフィス



厚生省駐車場
(プロジェクト基盤整備費による看護研修棟建設予定地)

99.03.26



サン・ファン・デ・ディオス病院病棟



HEPROESサンタ・アナ校



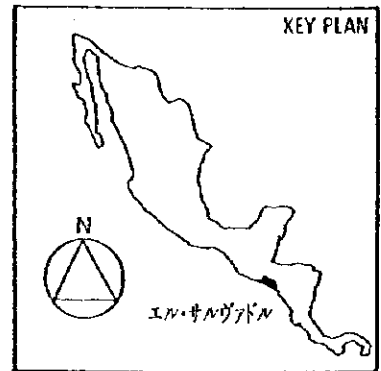
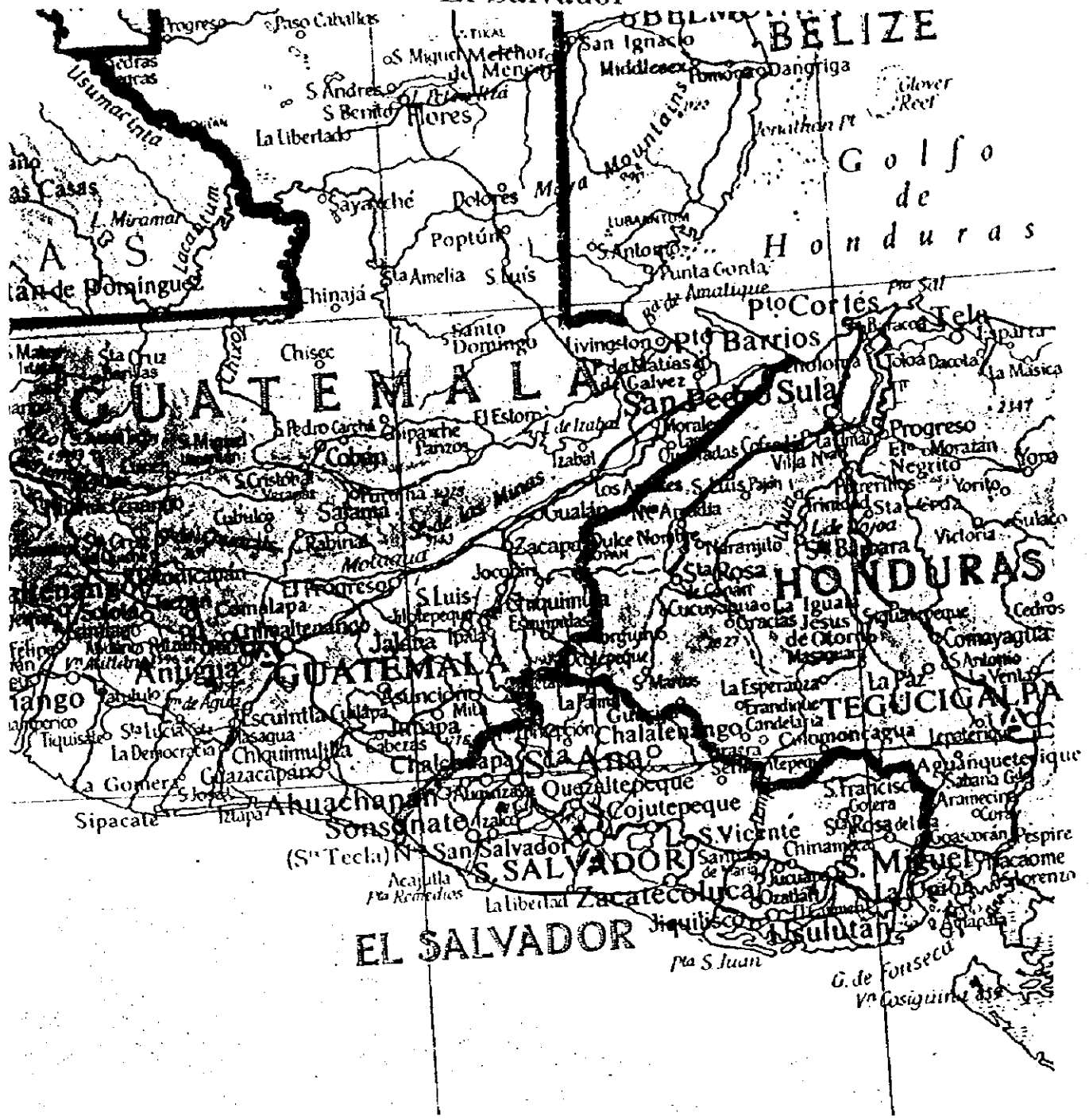
HEPROESサン・サルヴァドル校

98.03.26

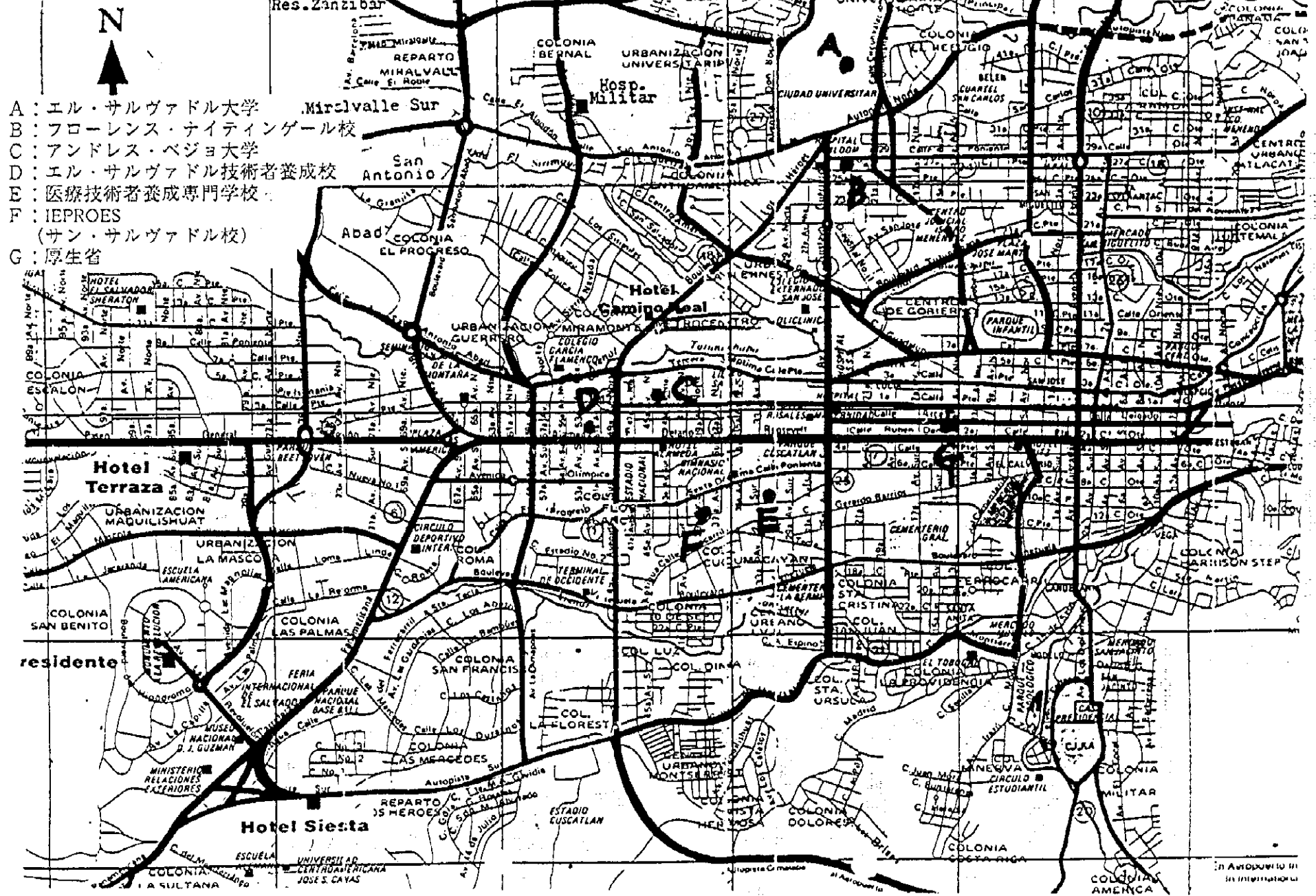


国立エル・サルヴァドル大学
看護学科

El Salvador



厚生省およびプロジェクト対象校位置図



- A : エル・サルヴァドル大学
- B : フローレンス・ナイティンゲール校
- C : アンドレス・ベジョ大学
- D : エル・サルヴァドル技術者養成校
- E : 医療技術者養成専門学校
- F : IEPROES (サン・サルヴァドル校)
- G : 厚生省

H : IEPROES (サンタ・アナ校)
I : IEPROES (サン・ミゲル校)



目 次

序 文

写 真

地 図

| | |
|------------------------------|-----|
| 1. 計画打合せ調査団の派遣 | 1 |
| 1-1 調査団派遣の経緯と目的 | 1 |
| 1-2 調査団の構成 | 1 |
| 1-3 調査日程 | 2 |
| 1-4 主要面談者 | 2 |
| 2. 総括報告 | 4 |
| 3. 分野別報告 | 6 |
| 3-1 看護行政 | 6 |
| 3-2 看護教育 | 10 |
| 附属資料 | |
| ① ミニッツ（写） | 31 |
| ② エル・サルヴァドル共和国の概要 | 49 |
| ③ 高等教育法とその一般法（エル・サルヴァドル国文部省） | 56 |
| ④ 供与機材の貸借契約書 | 101 |

1. 計画打合せ調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(1) 調査団派遣の経緯

1995年の国連統計によれば、エル・サルヴァドル共和国（以下、エル・サルヴァドルと略す）は、人口1590万人、1人当たりのGNPは1680ドルの低位中所得国であるが、1992年まで12年間続いた内戦により保健・医療体制の整備は大きく遅れ、特に貧困層においては、妊婦、乳児の死亡率は依然高い状況にある。このため、政府はまず、国民の保健・医療に直結する看護婦および准看護婦の人材育成を急務とし、看護人材の養成計画およびシステムの見直しと看護婦の質の向上を図るべく、わが国に対してプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受けてわが国は、1996年3月に事前調査を行い、1997年2月に実施協議調査団を派遣し、1997年6月1日より5年間、適正な人材配置計画のもとで、質の高い看護人材が育成されることを目的に本プロジェクトが開始された。

今般プロジェクト開始後10カ月を迎え、プロジェクトの進捗状況と問題点の把握、今後の計画についての先方との協議を目的として本調査団は派遣された。

(2) 調査団派遣の目的

今回の調査団において、プロジェクト発足以降の活動進捗状況・課題を把握するとともに、エル・サルヴァドル側の意向、計画を確認し、今後の協力計画を策定のうえ、協議結果をミニッツとして取りまとめる。

1-2 調査団の構成

| | 担 当 | 氏 名 | 所 属 |
|----|------|-------|-----------------------|
| 団長 | 総 括 | 田村やよひ | 厚生省看護研修研究センター所長 |
| 団員 | 看護教育 | 田島 桂子 | 聖隷クリストファー看護大学教授 |
| 団員 | 計画協力 | 吉武 毅人 | 国際協力事業団医療協力部医療協力第三課職員 |

1-3 調査日程

| 日順 | 月日 | 曜日 | 移動および業務 |
|----|------|----|--|
| 1 | 3/21 | 土 | 成田発(JL062) (17:20)→ロサンゼルス着(9:55) ロサンゼルス発(UA865) (23:30) |
| 2 | 22 | 日 | サン・サルヴァドル着(6:19) 午後：日本人専門家との打合せ |
| 3 | 23 | 月 | 午前：日本大使館、外務省国際協力局表敬 午後：厚生大臣表敬、厚生省看護課・看護協会・看護職能会との協議 |
| 4 | 24 | 火 | 午前：ロドルデス保健所、IEPROESサンタ・アナ校、 サン・ファン・デ・ディオス病院視察 午後：ロサレス病院視察、JICA駐在員事務所表敬 |
| 5 | 25 | 水 | 午前：国立大学(UES)看護学科、IEPROESサン・サルヴァドル校の視察 午後：厚生省看護課との協議 |
| 6 | 26 | 木 | 午前：合同委員会 午後：ミニッツ作成 |
| 7 | 27 | 金 | 午前：厚生省との協議、ミニッツ署名 午後：日本大使館報告 |
| 8 | 28 | 土 | サン・サルヴァドル発(UA864) (9:00)→ロサンゼルス着(12:14) |
| 9 | 29 | 日 | ロサンゼルス発(JL061) (11:40) |
| 10 | 30 | 月 | 成田着(16:15) |

1-4 主要面談者

(1) エル・サルヴァドル側

1) 厚生省

| | |
|-----------------------|--------|
| エドゥアルド・インテリアノ | 大臣 |
| アナ・マリア・デ・ガメロ | 副大臣 |
| カルロス・アルフレド・ロサレス | 医療総局長 |
| グロリア・イサベル・エルナンデス | 国際協力課長 |
| ソニア・デ・トビジャ | 国際課員 |
| エレナ・エリザベス・レジエス・デ・グスマン | 看護課長 |
| マリア・コンスエロ・オラノ・デエリアス | 看護課長代理 |
| ソニア・マルガリタ・センテノ | 看護課員 |

2) 外務省

| | |
|-------------------|---------|
| リナ・カステジャノス・デ・ハルキン | 国際協力局長 |
| リバス・サンタナ | 国際協力局次長 |
| エリザベト・デ・フエンテ | 国際協力局員 |

3) プロジェクト対象校

| | |
|------------------------|--|
| フリオ・ロベルト・カルピオ | 国立エル・サルヴァドル大学医学部長 |
| イサベル・クリスティナ・レジエス・レガラド | 国立エル・サルヴァドル大学 医学部看護学科長代理 |
| マルコ・トゥリオ・マガニヤ | アンドレス・ベジョ大学学長 |
| マリア・エステル・デ・エルナンデス | アンドレス・ベジョ大学看護学科長 |
| フレディ・オルランド・オルティス | 医療技術者養成専門学校理事長 |
| ジョセフィナ・コンセプション・カスタネダ | 医療技術者養成専門学校長 |
| イバン・フローレス・エリアス | エル・サルヴァドル技術者養成校長 |
| アイダ・ロベス・マルティネス | エル・サルヴァドル技術者養成校教師 |
| グラデイス・テレサ・アルゲタ | フローレンス・ナイティンゲール 看護専門学校長 |
| ソイラ・マリナ・トレス・グアドロン | 看護人材養成会会長 |
| ディナ・レオノル・ララ・サンドバル | エル・サルヴァドル保健医療従事者養成 専門学校 サンタ・アナ校校長代理 |
| テレサ・デ・ヘススアンドラデ・デ・エスコバル | 同 サン・ミゲル校校長 |
| グレンダ・デ・マルティネス | 同 サン・サルヴァドル校校長代理 |

4) 関係団体

| | |
|-------------------|----------------|
| ドロレス・アルミダ・デ・サイジェス | 最高保健審議会看護職能会会長 |
| ネリ・ラケル・ビジャノボス | 看護協会長 |

(2) 日本側

1) 在エル・サルヴァドル日本国大使館

| | |
|------|--------|
| 岩元 克 | 特命全権大使 |
| 石井 清 | 一等書記官 |

2) JICA関係者

| | |
|-------------------------|---------|
| 上島 篤 <small>あつし</small> | 駐在員事務所長 |
| 上原 盛毅 | JICA専門家 |

3) プロジェクト専門家

| | |
|--------|---------------|
| 菅原 能子 | チームリーダー |
| 松本 征吾 | 調整員 |
| 小川 正子 | 看護教育 (カリキュラム) |
| 村上 友美子 | 看護教育 (外科) |

2. 総括報告

本プロジェクトが開始されてから10カ月が経過し、今回の調査において、開始後の活動の進捗状況と問題点を把握するとともに、今後の協力量針を協議した。医療総局長を議長とする合同委員会との協議ののち、その協議結果をミニッツとして取りまとめ、3月27日に厚生大臣との間でミニッツの署名を行った。

(1) 調査概要

1) 厚生省および関係団体との意見交換

高等教育法の改正に伴い、看護人材養成や看護教育施設の認定の改正点とその進捗状況を確認した。文部省に先立ち、教育カリキュラムの審査を行う最高保健審議会看護職能会から、プロジェクトでの早期のカリキュラム作成が要請された。

2) プロジェクト対象校の視察

プロジェクト対象校8校中、3校を訪問するとともに、看護実習の場である病院・保健所を視察し、実状を把握した。

(2) 協議概要

厚生省看護課、看護協会、看護職能会との協議ののち、3月26日9時より、ホテル・テラサ・ヒラソルの会議室において合同委員会を開催した。看護課長補佐から1997年度の活動実績が、看護課長より1998年度の活動計画が報告され、協議のうえミニッツを作成し、3月27日に厚生大臣との間で署名を行った。ミニッツの概要は以下のとおりである。

1) 1997年度活動実績と1998年度計画の確認

1997年6月から10カ月の活動実績を評価し、専門家とカウンターパートの努力により、順調にプロジェクトが進展していることを合意した。また1998年度計画を確認した。

2) 懸案事項の対処方針

- ① 現在、高等教育法の改正に伴い、文部省により学校の認可にかかわる審査が行われているが、厚生省は最高保健審議会と連携をとり看護職能会を通じて、討議議事録(R/D)に記載されているプロジェクト対象校8校が対象校であり続けるように働きかける。しかし、もし文部省から看護教育施設としての認可が得られない場合は、その対象校は認可が得られるまでの間、プロジェクト活動への参加はできないものとする。
- ② プロジェクト対象校のなかには、非常勤教師がほとんどで、十分な常勤教師が配置されていない学校もある。このため厚生省はプロジェクト対象校に対し、生徒数に見合った、看護教育の実施に十分な常勤教師を配置するよう勧告する。
- ③ 厚生省へ機材が供与され、プロジェクト対象校へ貸与されている。1998年3月5日に供

与機材の供与式が行われた。厚生省は供与機材を適正に管理するため、機材貸与の際にプロジェクト対象校との間で締結した契約（実習室の整備、適正な保守管理等）を遵守させる。

- ④ 現在、日本人専門家事務所は厚生省の建物の地下にある部屋を使用しているが、手狭であり専門家の執務上、スペースに問題がある。また、各種セミナーの開催や検討委員会の開催等で会場の確保が非常に困難である。このため厚生省は同省敷地内に日本側の援助（プロジェクト基盤整備費）により看護研修棟を建設することを希望している。

3. 分野別報告

3-1 看護行政

(1) 高等教育法関連について

高等教育法は1996年9月に制定され、1998年1月から施行となった法律である。その目的は、公立、私立を問わず高等教育を行う施設の創設やその機能に関して一定の水準を確保するために規制をするものである。この背景には、内戦終結後、雨後の筈のようにできた自称「大学」としている施設が、質的にきわめて不十分であるという事情による。

エル・サルヴァドルにおいて、高等教育とは中等教育以後のすべての育成組織を指し（法3条）、技術者から博士までの7種類の高等教育に関する学位が定められている（法4条）。これによれば、看護人材養成に関しては、高卒2年・64単位以上のテクニコ（准看護婦）、高卒4年・128単位以上のテクノロゴ（看護婦）、および高卒5年・160単位以上の学士看護婦の3コースが該当する（法7、9、10条）。

これらの高等教育施設の認可はむろん文部省が行うものであるが、文部省に先だって、看護人材養成を行う施設として適当であるかどうかを審査する最高保健審議会看護職能会によるカリキュラム、教師、施設設備などの審査がある。

調査団出発前にプロジェクト対象校8校中の2校がこの審査をクリアできないのではないかと懸念されていたが、当該校の理事長が看護教育に対する考えを変更し始めていることから、最終的には認可の見通しが立ちつつあるとのことであった。

これまでエル・サルヴァドルでは、看護人材養成に関する基準カリキュラムがないため、1997年12月までに高等教育法に基づいて各学校が申請しているカリキュラムは各校独自のものである。しかし、1997年11月に行われた協力対象校一斉の卒業生の能力調査の結果から、教員たちは基準カリキュラムの必要性を痛感している。現在プロジェクトの活動の一環として、標準カリキュラムの作成が進められていることから、看護職能会からこれを早期に作成してほしい旨の要請があった。

(2) 看護職員人材養成・配置計画について

1) 看護職員の現状

エル・サルヴァドル厚生省看護課が1995年12月にまとめた「看護人材の育成と活用政策」によれば、1994年の厚生省の看護職員は4060人、その他の機関（社会保険病院等）には3458人、計7518人が就業している。職種別では看護婦29%、准看護婦70.5%とされている。需給の観点からは、厚生省では看護婦不足20%、准看護婦不足6%、その他の医療機関ではそれぞれ7%と6%の不足が指摘されている。

1998年の今回の調査時では、厚生省の看護職員数は4871人となっており、看護婦1753人(36%)、准看護婦3118人(64%)であった。4年間で800人ほど増加している。このうち、病院勤務者は3564人であり、看護婦は1218人(34.2%)、准看護婦は2346人(65.8%)の構成であった。厚生省の管轄する30病院の総病床数は4767床であるから、病床100床当たり看護職員数は74.8人となる(この数は、わが国の一般病院の100床当たり看護職員数42.7人(1994年)に比べ非常に多いといえる)。

しかしながら、病院の看護管理者たちは看護婦の不足感を訴えている。医師、看護婦以外のコ・メディカル職種や補助者がどの程度いるのか把握しなかったが、看護婦が看護に専念できないような環境があるのかもしれない。

なお、厚生省の看護婦の定年は55歳であり、結婚等の理由による中途退職はない。

2) 学士看護婦・専門学校卒の看護婦・准看護婦について

ある看護管理者は、看護婦と准看護婦とは「患者への対応をみても十分に違いがある」ため、「高度医療にはいっさいタッチさせない」と言う。また、看護婦の採用にあたっては「学士看護婦にこだわらない。協調性がない人もいるから。技術面では専門学校卒と学士看護婦とはさほど変わらない」とのことである。この病院では、学士しか看護婦長にはなれないということである。

別の看護管理者は、学士看護婦と専門学校卒業の看護婦との間には「業務上の責任は同じだが、複雑な業務には学士看護婦をつける」と言い、「将来的には、准看護婦の定員を削っても看護婦、それも学士看護婦を採用したい。質の高い看護をできるから」ということであった。

3) 看護職員養成の現状

プロジェクト側から提供された養成校の現状の資料(別添資料2)により、プロジェクト対象校8校の学生を課程別にみると、学士看護婦課程1109人、看護婦課程1362人、准看護婦課程426人である。このように専門学校での看護婦養成が最も多いが、学士課程に在籍する学生の数も多い。

すでに准看護婦として就業しながら看護婦をめざす「看護婦進学課程」には、667人が在籍している。

また、1994年までの厚生省立看護婦学校を卒業した看護婦に対しては、学士取得をめざす「学士進学課程」が開かれている。これは1992年から開始されたもので、10年間という時限つきであるが、希望者がなくなるまでもいわれている。この学士進学課程は国立大学医学部にのみ設置され、定員は50人、2年半の学習が必要とされている。現在このコースには44人が在籍している。このコースで学ぶために、公的機関で働く看護婦には、業務に支障のない限り、毎日2時間の勤務免除が法律で保障されている(しかし、首都の病院

の看護部長は、忙しさのため30分しか免除できないといっている)。

エル・サルヴァドルの看護職員の養成校は、1997年時点では国立1校、私立7校、軍1校の9校であったが、高等教育法の実施に伴って、1998年には私立大学が看護教育に参画する動きをみせており、養成機関、学生数ともに増加することが予測されている。

4) 配置計画について

厚生省として看護職員の配置に責任をもつのは、厚生省立の病院および保健センター等であり、社会保険病院やその他の民間施設に対する責任はない。

厚生省看護課が現在看護職員配置の目標としているところは、病院では看護婦と准看護婦の割合を1対1にしたいということである。

課長の話によると、当初(1995年頃か)の考えでは、学士看護婦と准看護婦という構成で看護を行うことを考えたようだったが、看護婦の養成をする専門学校が多いことからその考えを変えているようである。

また、地方の保健センターにも看護婦を複数送り込む、という厚生省の方針もある。

(3) 看護教育関連予算について

厚生省として看護教育に関する予算はもっていない。国立大学医学部看護学科は、国の予算が配分されているわけであるが、これは医学部10学科全体で約231万コロン(約3450万円)であり、しかも医学科重視の配分がなされているため、看護学科への配分はきわめて少ないとのことである。具体的な配分方法や金額は聞くことはできなかった。

(4) 看護教育研修棟建設候補地について

厚生省の横にある駐車場が候補地となっており、視察したところ、十分な広さがあると考えられた。研修棟の構想では、1階は駐車スペースとし、2階以上が研修室などに当てられることになっている。

エル・サルヴァドルの看護職員にとって、厚生省に隣接して自分たちの研修を目的とした建物が建設されることは、彼女たちの強い向上心とプライドを刺激し、看護の質の向上にさらに邁進する決意を強めるであろうと思われる。

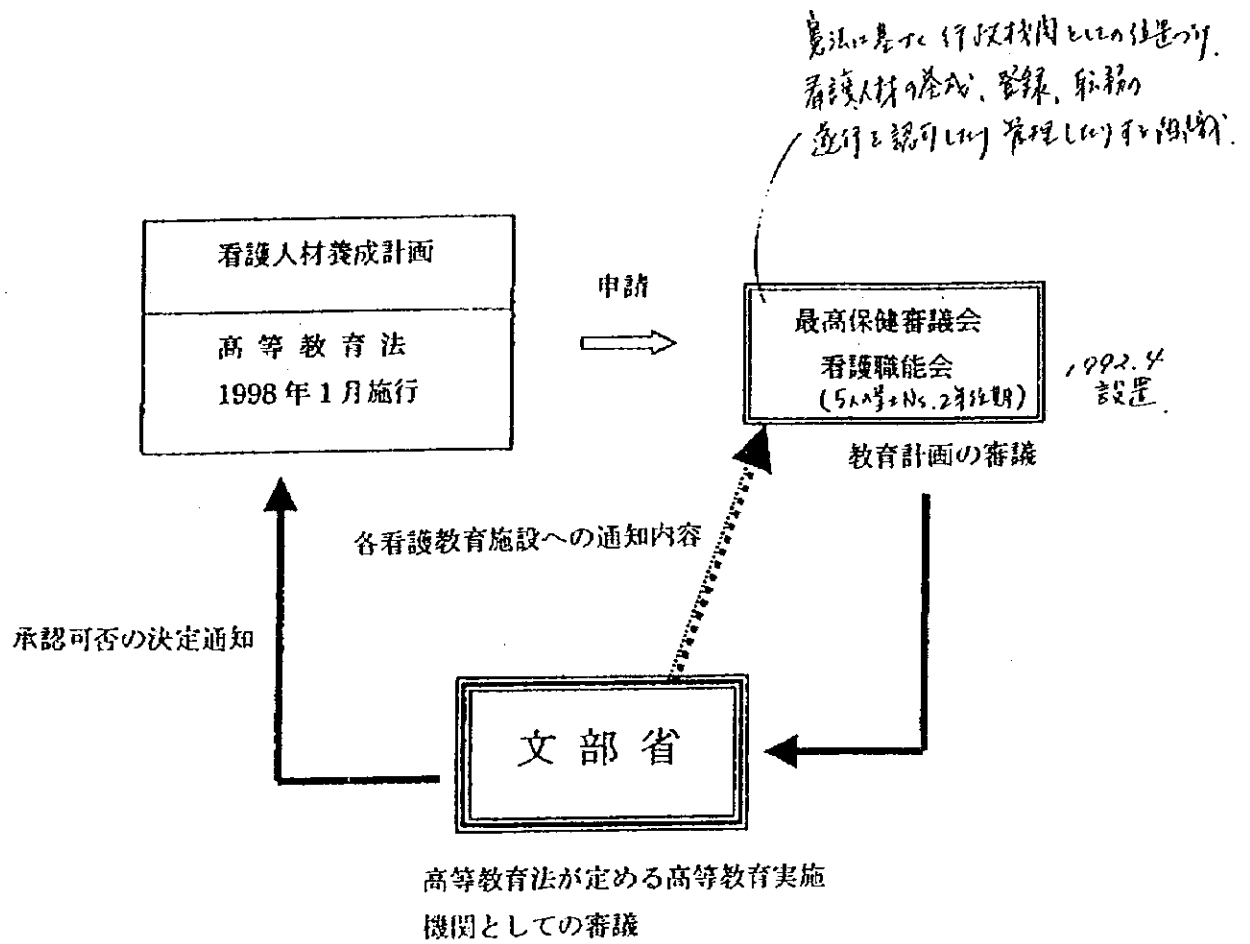


図3-1 看護人材養成申請・承認システム

表3-1 高等教育法による看護人材養成承認申請施設-1998-

プロジェクト協力対象校

| 旧施設名 | 新施設名 | 分校数 | 養成課程 | | |
|---|---|-----|------------------------|--------------|------------------------|
| | | | テクニク 准看護婦 | テクノロギ 看護婦 | 学 士 |
| 国立エル・サルヴァドル大学 医学部看護学科 | 変更なし | | | | ○ 手続中 承認可 能性大 |
| アンドレス・ベジョ大学看護 学科 | 変更なし | 5 | ○ 手続中 承認可 能性大 | ○ 同左 | ○ 同左 |
| 専門看護婦養成校 (SODEPROE)* サン・サルヴァドル校 サンタ・アナ校 サン・ミゲル校 | エル・サルヴァドル保健 医療従事者養成専門学校 (IEPROES)** サン・サルヴァドル校 サンタ・アナ校 サン・ミゲル校 | | ○ 承認 | ○ 手続中 | |
| 医療技術者養成専門学校 | 変更なし ソル・マリア・テレサ・ ラン看護専門学校と改称 したが再び旧名に戻した | | ○ 手続中 承認可 能性大 | ○ 手続中 | |
| エル・サルヴァドル技術者 養成校 | 変更なし | | ○ 手続中 | | |
| フローレンス・ナイティン ゲール校 | フローレンス・ナイティ ンゲール看護専門校 | 3 | ○ 手続中 | ○ 手続中 | |

*SODEPROE (Sociedad de Profesionales de Enfermería de El Salvador SA de CV)

**IEPROES (Instituto Especializado de Educación Superior de Profesionales de la Salud de El Salvador

:エル・サルヴァドル保健医療従事者養成専門学校)

SODEPROEが会社名であったため、1997年文部省に学校認可申請した際にIEPROESに改称して申請し、
1998年4月に正式に認められた。

3-2 看護教育

(1) 看護教育の現状

1) 看護婦養成校の現状と標準教育課程の作成状況

1996年9月に国会で承認された「高等教育法とその一般法」に基づき、看護教育制度が大幅に改正されることになった(別添資料1)。

看護教育制度の移行期における看護婦養成校の現状と課程別教育課程は、それぞれ別添資料2・3(本プロジェクト看護専門家による調査資料)に示すとおりである。これらの調査結果からわかるように、設定科目、教育時間数、教育者の数などにおいて、学校間に

大幅な差がある。

本プロジェクトの目標の1つに、改正された看護教育制度に対応する教育課程の標準化があるが、現在の進捗状況は、1997年12月にテクニコ養成コース（准看護婦課程：2年間）の標準教育課程（別添資料4）が完成し、1998年6月までにテクノロギ養成コース（看護婦養成課程：4年間）と学士看護婦養成コース（大学教育課程：5年間）の標準教育課程が作成される予定となっている。

標準教育課程の作成にあたっては、事前に協力対象校卒業生の能力調査（国レベルの一斉筆記試験）と教育課程検討セミナーを開催して、卒業生の能力の実態、現行教育課程の問題点および改正の必要性が確認されている。これらにかかわる本プロジェクト専門家の現在までの活動は別添資料5のとおりで、教育上の標準作成の必要性は関係者の共通の認識となっている。

2) 学校の施設・設備

各学校の施設・設備については、別添資料2に示すとおりで、他国からの援助を受けている1校以外は、教室不足、教育機器・教材の不足、実習室の不備などの問題がある。教室は、狭く古い小型の椅子つき机が前後の間隔がないように詰め込まれている。このような教室不足状態は、学内実習用供与機材を置く部屋の確保にも相当の努力を要している。また、IEPROESの学校では、民間の住宅を学校にしているため、狭い教室が分散した状態である。

そのなかでも国立大学の教育環境は劣っている。国立大学の場合は医学部に多くの予算を必要とし、その他の学科には申請に応じて当年度の予算額を学長が配分する方法で運営されている。少額の予算が10学科に配分されるため、看護学科で使用できる予算は少なく、教育環境の改善は期待できないという。

以上の学校の設備上の問題だけではなく、看護教育で不可欠な臨床実習場の確保が困難となっている面もある。看護教育機関が民营化されてから、私立の看護婦学校が急増したため臨床実習場が確保できなくなったのがその理由である。

3) 教育機器・教育方法

教育機器面では、数は少ないが設備がある学校では視聴覚機器として、OHP、スライドプロジェクター、テレビ、ビデオが設置されている。OHPはほとんどの学校に設置されているが、古くなったり故障したりしていることも多い。

教育方法面では、国立大学では1992年の教育体制の改正時に、教育課程に問題解決学習方式が一部取り入れられ、グループワークとプレゼンテーションを中心とした学習となった。しかし一般には、教育教材、テキストなどがほとんどない状態で、一部にOHPを使用した説明、自作の掛け図などによる教師の説明を各自ノートに筆記するという形態の教育

が主となっている。なお、看護技術に関する教育については、各学校に数台のベッドが教室の片隅にある以外はずかな自作教材がある程度の設備で、簡単な内容の説明にとどまらざるを得ない。ベッドサイドで行う看護内容のほとんどの学習が、臨床実習での学習内容となっている。

このような学校の環境のなかに、本プロジェクトによる学内実習用供与機材が導入され、これからの教育技法の検討・開発が大きく期待されている。

4) 教育人材

教育人材の問題としては看護教員の不足が筆頭にあらってくる。予算不足のため増員できないのがその理由である。看護教員としての能力をもつ人材はいるが、給与が安いので教員になることを希望しないことも関係している。したがって、現在看護教員をしている者が専任となっている学校以外で非常勤講師をして、教育の維持と教員の経済面の補いを行っているのが実情である。その他に、病院や保健所の職員を非常勤講師として雇用しているが、勤務の都合で必要な時間を確保できない場合もある。

5) 臨床実習を行う病院等の実情

① サン・ファン・デ・ディオス病院 (サンタ・アナ)

ベッド数486床、看護婦数99名 (学士看護婦10名を含む)、准看護婦220名、補助者19名、婦長11名 (学士以上の資格をもつ看護婦を充当)、臨床指導者23名を有する病院で、5校の臨床実習場となっている。病棟は比較的清潔で整然としている。しかし、ベッドごとの仕切りのない大部屋が1看護単位となっている病院で、患者のプライバシーは保たれていない。

② 国立ロサレス病院 (サン・サルヴァドル)

ベッド数541床、看護婦96名 (学士看護婦25名を含む)、准看護婦385名、管理婦長19名 (全員が学士ではない)、教育専門婦長1名、41看護単位の病院で、3校の実習場となっている。1看護単位の構造は上記のサン・ファン・デ・ディオス病院とほぼ同様である。患者の在院期間は5～7日である。ICUもあり、国立病院の機能は備えているようであるが、病棟管理上の問題が感じられた。廊下まで使用した入院患者の受入れ、清潔・不潔の概念や治療処置にかかわる看護技術の不十分さなどが目についた。

同病院では、看護婦のレベルアップを図るために1カ月に1回ないし1週に1回の院内教育を行ったり、ICUなどの複雑な看護を要する病棟には、学士看護婦を配置するなどの考慮をしている。

6) 臨床実習指導の実情

IEPROESの学校の場合は、1看護単位に学生10名程度を配置し、その指導には1名の専任指導者がかかわっている。臨床指導者には一般に臨床経験3年以上の学士看護婦が選定

されているが、病院勤務の看護婦が休業日を利用したり、退職後の人材をパートタイムで雇用したりして人材を確保し指導に当てている。

一方、国立大学の場合は大学の教員が指導に当たっているが、1人で数カ所を掛け持ちで担当しているため、巡回する程度で直接的な指導はほとんど行われていないのが現状である。

臨床実習では総じてベッドサイドでの実践面の指導は行われてなく、時に学生を集めて一斉に必要な事項の説明をしたり、カンファレンスを行ったりする程度であるという。

なお、現状では臨床の指導者と学校の教員との連携はほとんどない。

(2) 今後の課題

以上のような看護教育の現状を総合的にみれば、今後の看護教育の発展に向けて次のような課題があげられる。

1) 専任看護教員の量と教育の質の確保

新教育制度による看護教育の必要単位数が、高等教育法に定められている他の領域の教育よりテクニコ養成で11単位、テクノロゴ養成で22単位、学士養成で25単位上回っている。これから作成される教育課程の標準を満たすために、看護教育の担当分野が増加すれば、それを考慮した看護教員数が必要になる。厚生省（看護課）との協議の際、教員数の整備計画が話題になっていたが、現在の専任看護教員数の実態から考えると、一定の基準を設けて、学校の認可条件の1つとすることが望まれる。

現状では大学教育までを看護の基礎教育として、特に看護教員の専門領域にこだわりがないようであるが、この考え方を基盤にしながら、教育内容の検討・開発のために、看護教員が専門領域を一部もつような検討も必要であろう。なお、理論を教育した者が関係領域の臨床実習指導を行う方法は今後も踏襲されることを期待する。

2) 標準教育課程の利用方法

作成予定の看護教育制度に基づく標準教育課程の利用にあたっては、標準の意味を十分理解しておく必要がある。初期段階では標準化された教育課程どおりの教育を行うことが要求されがちであるが、有資格者としての基準を維持しながらも、学校の特色を見失わない教育が必要である。

3) 教育環境の整備

教室の確保、学内実習室の整備が当面の大きな課題である。この件に関しては、各学校に自助努力を求めながら、新設校に関しては一定の基準を設けた措置も必要であろう。

4) 臨床指導へのかかわり方

供与教材、指導方法の技術移転により学内での看護技術教育が現状より充実することは

期待できるが、臨床での患者に応じた確実な看護の実践力を学生が身につけるには、臨床での看護および病棟環境の改善と指導体制を整える必要がある。

5) 教育機器・教材の点検・補充体制の確保

教育機器、教材は定期的に点検し、故障や破損時の補修体制が整っていないとなければならない。一般に故障や破損時の対応策が事前に考えられていないため、供与機材が使用不能になれば放置されることが多い。故障や破損時の補修方法とそのため予算措置が使用開始とともに講じられる必要がある。

6) 継続的な看護教育内容の検討とテキストの開発

本プロジェクトで図書の供与とテキストの作成が予定されているが、教育内容は継続的に検討される必要がある。スペイン語の看護関係学術雑誌が発行されていないという現状で多くの学術情報を確保するには、英語図書・英語文献の解説と看護教員の独自の研究が不可欠となる。看護教員はもちろん、看護学生にもその基礎能力を養う教育が求められる。

7) 教育技法の開発

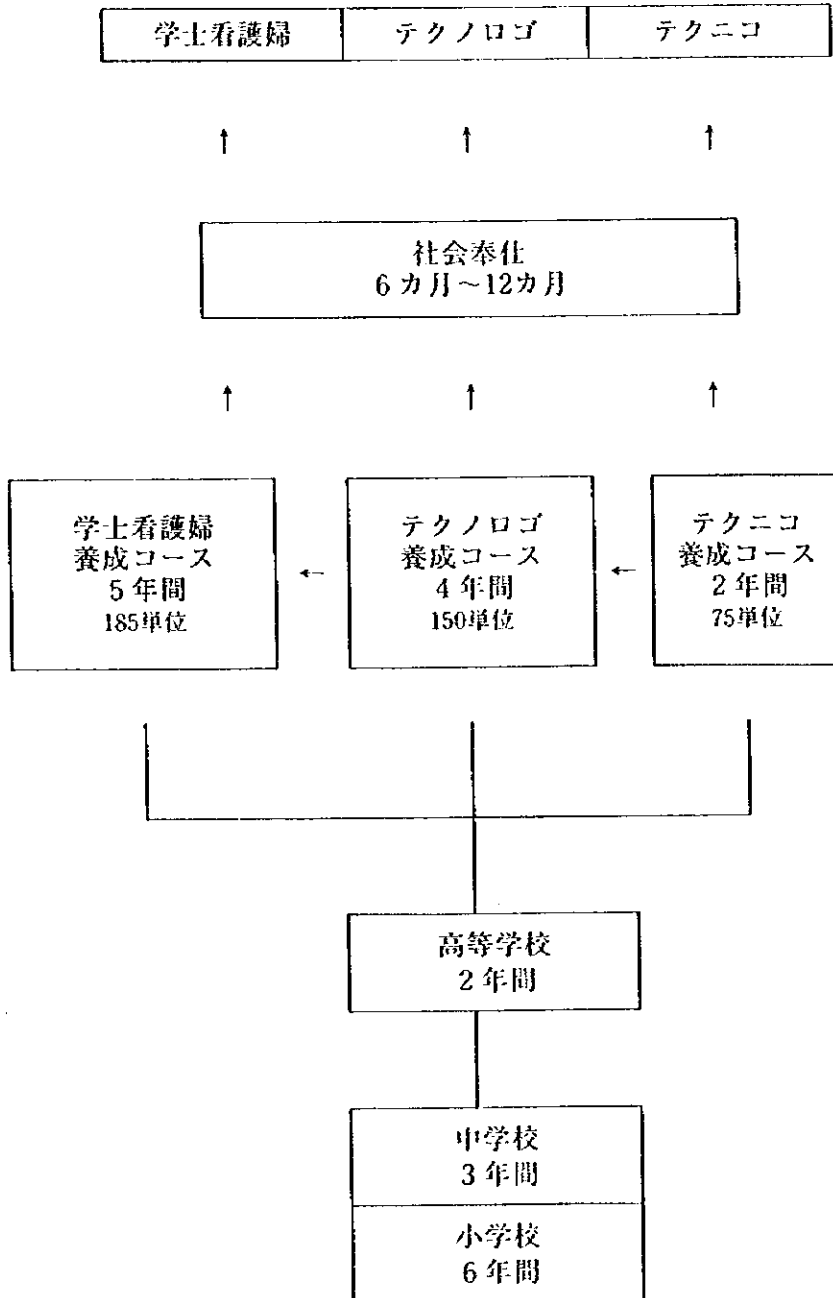
一般的な供与機材の使用法の学習後は、教育の課程での多様な活用方法と新たな教材の開発が必要になる。プロジェクト対象校には、共通の教育機材・教材が供与されているので、その多様な活用方法に関する論議や開発された教育技法の紹介が、学校間で行われることを期待する。

(3) まとめ

教目ではあったが、エル・サルヴァドルの本プロジェクト関係者との会合、関係施設の視察を通じて最も強く感じたことは、エル・サルヴァドルと日本側プロジェクト関係者が一体となって、目標に向かっているということであった。

調査期間中には、作成された准看護婦教育課程を見る機会はなかった（未翻訳のため）が、さらに、6月までに標準教育課程を作成することを目標として、エル・サルヴァドル側関係者と日本側プロジェクト関係者が一丸となって取り組んでいるということであった。その作成体制には厚生省看護課、看護婦協会、文部省の教育計画審査にかかわる看護職能理事会の3部門が関係している。このような組織で看護教育課程を編成できる国は多くないように思われる。その意味で、本プロジェクトによる看護教育課程編成過程が1つの看護教育課程開発モデルとなることを期待している。

看護教育制度—1998年—



看護職員養成校の現状 (1998年3月現在)

| 学校名 | 養成コース | 開校年度 | 教師数 | 学生数 | 学費 (単位:コロン) | 学校運営予算 (単位:コロン) | 教師の総数 (単位:コロン) | 時間割 | 施設および設備 |
|------------------------------|--------------------------------|------|--|--|---|--|--|--|---|
| 国立大学 医学部 看護学科 | 学士課程 学士進修課程 | 1985 | 学部長 1 常勤教師 17 (うち、3名は 教養課程) 全教師 学士看護婦 | (旧カリ) 5年生 25 (新カリ) 2年生 93 3年生 45 4年生 48 5年生 151 進学課程 44 | 入学金: 120 授業料: 月額 150 (進学課 10~ 40 (学士)) | 2,307,865 (医学部全体の 予算。医学部 が全10科すべて の管理をして いる。) | 常勤教師: 4,028 教師経験5年以上 5,088 修士、研究3題↑ 5,724 教師経験20年↑ 6,360 | 学士課程:月~金 8時~16時 学士進修課程:月~金 14時~18時 | 医学部医療技術学校は、9つの科を有している(看護科、栄養学科、理学療法科、健康教育学科、麻酔科、母子科、X線科、科学技術科、検査科)。1992年政策により、5科のみの学士コースだったものが、全科学士コースになった。それに伴い、カリキュラムも改定され、教育方法が問題解決学習方式を一部取り入れたものとなりグループ・ワーク中心の学習方法となっている。 建物は、6階建ての古いもので、競争中ゲリラの本拠地になっていて、今でも弾丸の跡が外壁に残っている。看護学科専用の教室は4室で、そのうちの1室を特に学内実習用として用いている。学生の数に對して教室が少ないこと、また新カリの学習形態により小教室を多用しなければならぬ、他の科の教室を借用しなくてはならない状況であること、図室もごくわずかである。 |
| IEPROES サン・サ ルヴァ ル校 | 看護婦課程 看護婦進学 課程 准看護婦課程 | 1995 | 校長 1 常勤教師 13 非常勤教師 19 実習指導者 28 (うち、学士 看護婦15) | 看護婦課程: 1年生 56 2年生 66 3年生 53 進学課程:342 准看護婦課程 71 | 入学金: 1,100 授業料: 月額 360 実習料 100 | 4,200,000 (3校合計) | 常勤教師: 3,550~5,000 (管理者) 社会奉仕中の学生 指導 4,000 非常勤教師: 2,300 (6時間) 講師:時間給 35 | 看護婦課程: 講義:月~金 7時~15時 実習:各領域によって異なり、6時~16時の間で6時間~8時間 准看護婦課程: 講義:月~金 7時~15時 実習:7時~14時(保健所実習は7時~16時) | 教室不足問題については、現在厚生省と折衝中であり、2カ所の候補地があること。当プロジェクトよりの学内実習用体育器材の到着前には、広い実習室を準備し待っているとのこと。前回の調査時使用していた古いOHPは、2台とも故障しており、税関覚醒器が全くない状況である。(他の詳細な情報は、事前調査報告書参照) |
| IEPROES サンタ・ アナ校 | 同上 | 同上 | 校長 1 常勤教師 12 非常勤教師 8 (うち、学士 看護婦3) | 看護婦課程: 1年生 94 2年生 52 3年生 46 進学課程:65 准看護婦課程 44 | 同上 | 同上 | 同上 | 看護婦課程: 講義:実習とも月~金 7時~15時 准看護婦課程: 講義:月~金 7時~15時 実習:7時~13時または14時(保健所実習は7時~16時) | 図書購入を考えているが、経営が苦しく経費を捻出できないので、以前は学校にあり現在病院にある図書類を、厚生省を通して交渉中とのこと。(他の情報については、事前調査報告書参照) |

| | | | | | | | | |
|----------------------|-----------------|------|---|--|--|---|--|--|
| フレックス・インテグレート看護専門学校 | 准看護婦課程 | | 非常勤教師 (うち、学士看護婦8) | 3年生 進学課程：101 准看護婦課程：125 | 授業料： 月額 200 | 非常勤教師：2,000 (6時間勤務) 講師： 時間給 25 | 13時～18時20分 (午後のグループ) 土 7時15分～15時 実習：月～金 6時30分～14時30分 准看護婦課程： 講義：月～金 15時20分～18時50分 土 7時30分～15時40分 日 7時30分～15時 実習：月～金 7時～14時 | 習室1、図書室1、医務室1、事務室1、グループ・ワーク用空間3、食堂兼休憩所1、とはほ満足できる環境といえる。しかし、実習室が狭いことと図書閲覧室がないため、道沿を隔てた向かいの大きな家を購入。2月に購入予定であるとのこと。教育機器もほぼ充実しているが、学内実習用備品がベッド4台あるのみで他は皆無に等しいため、看護技術の習得は、臨床実習の場で直接患者を通して学んでいるとのこと。図書も他校と比較すると充実しており、専属の司書がおりよりよく管理されている。 |
| プロ・ナース・インテグレート看護専門学校 | 看護婦課程 准看護婦課程 | 1980 | 校長 副校長 常勤教師 9 非常勤教師 10 実習指導者 17 | 看護婦課程： 本校 70 2年生 40 3年生 80 分校 10 准看護婦課程： 本校 35 分校 | 入学金：2,400 授業料： 月額 600 (看護婦雑費：1,028) | 常勤教師：2,000～2,300 非常勤教師：25 時間給 | 看護婦課程： 講義：月～金 7時～17時 実習：7時～12時 7時～15時 准看護婦課程： 講義：月～金 7時～17時 実習：7時～12時 7時～15時 | 当国で最初の私立看護婦養成校である。経営者の家族で運営されており学校の他に8つの製造所(医療従事者のユニホーム等)と看護婦雑費よりの収入がある。 サン・サルヴァドール校を本校とし、サンタ・アナ、サン・ミゲルに各々1校の分校を有している。3校の学生総数は、看護婦課程149名、准看護婦課程93名、衛生看護課程105名の総計347名である。 本校の建物は3階建てで、小教室7、実習室2、校長室1、事務室1、会議室1、休憩室1とはほ満足できる環境である。しかし、他校も同様であるが、実習場の確保が困難で、当校はそのほとんどが私立の医療施設である。 他国よりの援助を受けており、毎年他のものではイスイラエルでの研修制度(教師)、他国産品では、ステインよりの図書やコンピューター、メキシコよりのビデオやスライド等が供与されている。そのためか、教育機器・教材等は他校とは比べものにならないくらい充実している。学内実習用品についても同様で、古いものではあるがかなりの物を所有している。 |

| | | | | | | | | |
|-------------------------|----------------|---|----|---|---------|---|---|--|
| エル・サ ドル校 術者 成校 | 准看護婦課程 1983 | コ ー ス 名 称 1 常 勤 教 師 1 非 常 勤 教 師 2 実 習 指 導 者 2 | 24 | 入学金： 450 授業料： 月額 225 雑費 1,175 | 202,800 | 常勤教師： 3,000 非常勤教師： 1,700 (5時間勤務) 講師： 時間給 20 | 講義：月～金 13時～16時20分 土 8時～12時 実習：月～金 7時～12時 土 13時～17時 夜間実習 1ヵ月4回 | <p>午前は高等学校教育を、午後に准看護婦と理学療法士の養成を行っている。1997年より、夜間コースを開始する予定で、教育期間は22ヵ月である。月～金曜日が午後5時～午後8時の授業で、土・日曜日が1日実習となっている。</p> <p>建物は平屋で、動物の飼育場のように前面サイドに全面を低い塀で仕切っただけの教室が細長く続き、形としては教室5、実習室1、校長室1、教務室1、食堂兼休憩室1と、お祭的な教育環境である。</p> <p>教育機器等については、TV1台、VHS1台、OHP1台、音の複製(古いもの)1体があるのみ。学内実習用備品については、ベッド3台とオリエンテーション用物品が少しあるのみで、看護教育としては満足できざるものではないが、経営者は「すべて揃っており、よい教育をしている」と言う。</p> |
|-------------------------|----------------|---|----|---|---------|---|---|--|

看護婦養成校カリキュラムの課程別一覧表

1. 学士看護婦課程

2校・・・国立大学医学部看護学科、アンドレス・ベジョ大学看護学科

| 国立大学医学部看護学科 | | | | アンドレス・ベジョ大学看護学科 | | | |
|--|-----|--|------------------|--|---|---|--|
| 時間割り：月～金 AM8:00～PM4:00, 土・日 地域実習必要時 | | | | 時間割り： Aコース 月～金PM4:00～PM7:30, 実習AM7:00～PM3:00 Bコース 土AM7:30～PM5:30, 日AM7:30～PM1:00 | | | |
| 1 学年 | 1 期 | モデル 1： エル・サルヴァドル社会における 健康・不健康のプロセス モデル 2： 地域における健康・不健康のプロ セス | 時間 240 280 | 1 学年 | 科 目 | 時間 | |
| | 2 期 | モデル 3： 栄養作用の促進のプロセスと構 成の因果関係 | 360 | | 生物学 化 学 物理学 社会人類学 心理学 解剖・生理学 生化学 英 語 統計学 社会学 | 72 72 72 72 72 144 54 72 54 54 | |
| 2 学年 | 3 期 | モデル 4： エル・サルヴァドル人に多い伝染 病とその原因（因果関係） | 320 | 2 学年 | 伝染病 微生物学と寄生虫学 病理学 研究方法 基礎看護学Ⅰ 地域看護学Ⅰ 薬理学 内科・外科看護 救急医療 | 72 72 72 90 72 72 72 108 72 | |
| | 4 期 | モデル 5： 青年期・成人期の健康・不健康の プロセスにおいて、経済・政策・ 身体・精神・社会的側面より、原 因を解明する看護の介入の基礎 を築く | 240 | | 地域看護学Ⅱ 小児看護学 母性看護学 教育技術 地域看護学Ⅲ 精神看護 栄養学と食事療法 | 108 90 90 54 144 72 108 | |
| 3 学年 | 5 期 | モデル 6： 軽度・中等度の外科的問題のある 成人に対し、経済・政策・身体・ 精神・社会的側面より原因を解明 する看護の介入 | 320 | 3 学年 | 看護管理 精神科看護 外科看護学 社会保障 地域管理 職業倫理 健康に関する法律 診療看護 | 90 72 108 54 108 54 54 144 | |
| | 6 期 | モデル 7： 高度の外科的問題のある成人に 対し、経済政策・身体・精神・社 会的側面より原因を解明する看 護の介入 | 320 | | 4 学年 | | |
| 4 学年 | 7 期 | モデル 8： 地域・施設内において、軽度・中 等度の健康・不健康のプロセスに ある母子に対し、経済・身体・精 神・社会的側面より原因を解明す る看護の介入 | 360 | | | | |

| | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|-----------------------------------|-------------------|
| | 8期 | モデル9： 地域・施設内において、高度の健康・不健康のプロセスにある母子に対し、経済・身体・精神・社会的側面より原因を解明する看護の介入 | 360 | 5学年 | 教育と研究 ローテーション実習 卒業セミナー | 108 180 462 |
| | | | | | 総時間数・・・ 理論・・・ 3,360時間 実習・・・ | |
| 5学年 | 9期 | モデル10： 看護における教授・学習過程 | 80 | <結果> ・国立大学のものについては、具体的な教育内容がないため何も言えない。 ・アンドレス・ベジョ大学のものは、地域看護学に関する時間の割合が他と比べて多い（地域看護学432時間、全体の12.8%、母性・小児とも全体の2.6%、内科・外科看護6.4%）。 看護管理・看護研究の時間数も学士看護婦教育としては少ない。 | | |
| | | モデル11： 看護における研究計画、卒業セミナー1 | 80 | | | |
| | 10期 | モデル12： 看護における研究の実施・報告、卒業セミナー2 | 80 | | | |
| | | モデル13： 地域・施設内の保健サービスにおける看護管理 | 320 | | | |
| | | 総時間数・・・ 5,605時間 理論・・・ 3,360時間 実習・・・ 2,245時間 | | | | |

2. 学士進学課程

2校・・・国立大学医学部看護学科、アンドレス・ベジョ大学看護学科

| 国立大学医学部看護学科 | | | アンドレス・ベジョ大学看護学科 | | |
|-------------|--|-----|-----------------|--------|----|
| 1学年 | 時間 | 時間 | 学年 | 科目 | 時間 |
| 1学年 | モデル1： 知識と社会 卒業セミナー（セミナーの計画） | 360 | 1学年 | 社会学 | 54 |
| | モデル2： 人間とその環境 卒業セミナー（研究計画） | 360 | | 心理学 | 54 |
| 2学年 | モデル3： 健康一般に関する看護 卒業セミナー（研究活動） モデル4： 母子と労働者のグループに対する看護 卒業セミナー（研究結果の検討） | 360 | 社会人類学 | 54 | |
| | | | 生物学 | 144 | |
| | | | 英語 | 72 | |
| | | | 研究方法 | 72 | |
| 3学年 | モデル5： 公衆衛生管理 卒業セミナー（最終報告書作成） | 360 | 統計学 | 72 | |
| | | | 物理学 | 54 | |
| | | | 伝染病 | 90 | |
| | | | 微生物学と寄生虫学 | 72 | |
| | | | 2学年 | 地域看護学Ⅱ | 72 |
| | | | 病理学 | 72 | |
| | | | 薬理学 | 90 | |
| | | | 栄養学と食事療法 | 72 | |
| | | | 教育技術 | 54 | |
| | | | 地域看護学Ⅲ | 72 | |
| 診療看護 | 72 | | | | |
| 精神科看護 | 54 | | | | |
| 地域管理 | 90 | | | | |
| 教育と研究 | 90 | | | | |

| | | |
|------|---------|-----|
| 3 学年 | 診療看護学Ⅱ | 144 |
| | 母子看護学 | 90 |
| | 人材管理 | 54 |
| | 職業倫理と法律 | 36 |
| | 社会保障 | 36 |
| | 卒業セミナー | 90 |

3. 看護婦課程

4 校・・・アンドレス・ベジョ大学看護学科、IEPROES 3 校、

フローレンス・ナイティンゲール校、医療技術者養成校

| アンドレス・ベジョ大学看護学科 | | IEPROES 3校 | | フローレンス・ナイティンゲール校 | | 医療技術者養成校 | | |
|-----------------------------------|-----|-----------------|-------------|--|------|--|---------------|-----|
| 時間割り：月～金PM4～PM7:30 実習時間AM7～PM3 | | 時間割り：月～金AM7～PM3 | | 時間割り：6ヵ月AM7～PM5 実習中 AM7～12(実習)、 PM2～5(授業) | | 時間割り：1年日AM7:15～ PM2:45 2・3年日PM1～ PM6:30 | | |
| 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | |
| 1 生物学 | 72 | 1 心理学 | 50 | 1 研究方法 | 60 | 1 統計学 | 50 | |
| 1 学 化学 | 72 | 1 学 社会学 | 50 | 1 学 解剖・生理学 | 80 | 1 学 社会学 | 50 | |
| 1 年 物理学 | 72 | 1 年 コミュニケーション理 | 20 | 1 年 微生物学と寄生虫学 | 80 | 1 年 解剖・生理学 | 100 | |
| | 72 | | 論 | | 60 | | 心理学 | 60 |
| | 72 | | 教育法 | | 40 | | 生化学 | 20 |
| | 126 | | 調査研究法 | | 40 | | 環境衛生 | 30 |
| | 54 | | 哲学(導入) | | 20 | | 救急医療 | 20 |
| | 54 | | 倫理学 | | 30 | | 看護史 | 20 |
| | 72 | | 医学統計 | | 40 | | 職業倫理 | 20 |
| | 54 | | 英語 | | 40 | | 病理学 | 100 |
| | | | 看護史 | | 10 | | 薬理学 | 60 |
| 2 伝染病 | 72 | | 生化学 | | 50 | | 伝染病学 | 40 |
| 2 学 微生物学と寄生虫学 | 72 | | 微生物学と寄生虫学 | | 40 | | 指導法の基礎 | 60 |
| 2 年 病理学 | 72 | | 解剖・生理学 | | 80 | | 微生物学 | 60 |
| | 90 | | 栄養学Ⅰ | | 35 | | 基礎看護学 | 170 |
| | 72 | | 薬理学 | | 40 | | 栄養学Ⅰ | 30 |
| | 108 | | 基礎看護学 | | 200 | | 臨床実習(基礎看護学) | 150 |
| | 72 | | 地域看護学 | | 46 | | 2 外科看護学 | 60 |
| | 90 | | 臨床実習(基礎看護学) | | 420 | | 2 学 内科・外科看護学Ⅰ | 250 |
| | 54 | | 2 オリエンテーション | | 24 | | 2 年 人類学 | 30 |
| | 54 | | 英語Ⅱ | | 20 | | 伝染性疾患 | 50 |
| 3 母子看護 | 108 | | 栄養学Ⅱ | | 45 | | 社会調査法 | 60 |
| 3 学 職業倫理と法律 | 54 | | 伝染病Ⅰ | | 30 | | 栄養学Ⅱ | 40 |
| 3 年 精神科看護 | 54 | | 内科・外科看護学 | | 200 | | 職業のオリエンテーシ | 20 |
| | 90 | | 母子看護学Ⅰ | | 130 | | ン | |
| | 54 | | 手術室看護 | | 75 | | 母子看護学Ⅰ | 190 |
| | 54 | | 感染症患者の看護 | | 50 | | 地域の発展 | 60 |
| | 180 | | 音楽 | | 20 | | 内科・外科看護学Ⅱ | 250 |
| | 180 | | 体育 | | 20 | | 健康に関する統計 | 60 |
| | | | 臨床実習 | | 940 | | 臨床実習 | 650 |
| 総時間数・3,225時間 | | 3 オリエンテーション | 5 | 3 精神の健康、精神医学 | 60 | 3 災害 | 20 | |
| 理論・2,070時間 | | 3 年 英語Ⅲ | 20 | 3 学 小児看護学 | 60 | 3 学 母子看護学Ⅱ | 100 | |
| 実習・1,155時間 | | 3 年 地域看護学 | 40 | 3 年 母子看護学 | 100 | 3 年 看護管理 | 100 | |
| | | | 伝染病Ⅱ | | 80 | | 精神科看護学 | 80 |
| | | | 看護管理 | | 80 | | 公衆衛生における看護 | 80 |
| | | | 精神科看護 | | 400 | | 公衆衛生の管理 | 50 |
| | | | 母子看護学Ⅱ | | 200 | | 看護養成のための教育技 | 250 |
| | | | 地域看護学Ⅱ | | 200 | | 術 | |
| | | | 看護倫理 | | 200 | | 臨床実習 | 500 |
| | | | 臨床実習 | | 1050 | | | |
| | | 総時間数・4,300時間 | | 総時間数・4,780時間 | | 総時間数・3,910時間 | | |
| | | 理論・1,890時間 | | 理論・2,540時間 | | 理論・2,610時間 | | |
| | | 実習・2,410時間 | | 実習・2,240時間 | | 実習・1,300時間 | | |

<結果>

- ・各校の総時間数を比較してみると、4,780時間～3,225時間と1,555時間の大差がある。

1996年より改定された教育法

| | | | |
|---------------------|---------|---------|-----------|
| 高等教育……Tecnica …………… | 64単位…… | 1,280時間 | (准看護婦養成) |
| Profesorado …………… | 96単位…… | 1,920時間 | |
| Tecnologo …………… | 128単位…… | 2,560時間 | (看護婦養成) |
| Licencia …………… | 160単位…… | 3,200時間 | (学士看護婦養成) |

- ・時間割りと総時間数との関連

提示されている実習時間を満たすことができない学校がある。

- ・各校の教育内容の比較

| | |
|----------------|-------------|
| 母子看護学の時間数…………… | 280時間～160時間 |
| 小児看護学の時間数…………… | 0(3校)～120時間 |
| 地域看護学の時間数…………… | 60時間～560時間 |
| 内科・外科看護学…………… | 90時間～560時間 |

4. 看護婦進学課程

2校・・・IEPROES 2校、医療技術者養成校

| IEPROES 2校 | | | 医療技術者養成校 | | | |
|---------------------------------|-----|------|--|-----------|-----|--|
| 時間割り：金 PM1～PM6, 土 AM7～PM6:15 | | | 時間割り：月～金 PM1:40～PM6:30, 土 AM7～12:30 | | | |
| 科 目 | 時間 | 期 | 科 目 | 時間 | | |
| オリエンテーション | 20 | 3期 | 社会学 | 50 | | |
| 看護史 | 10 | | 職業倫理 | 20 | | |
| 哲学 | 20 | | 内科・外科看護学Ⅰ | 250 | | |
| 人類学 | 20 | | 伝染性疾患 | 50 | | |
| 心理学 | 30 | | 研究方法 | 60 | | |
| 教育方法 | 35 | | 看護職のオリエンテーション | 30 | | |
| 倫理学 | 20 | | 手術室看護 | 50 | | |
| 社会学 | 30 | | 臨床実習 | 200 | | |
| 解剖・生理学 | 60 | | 4期 | 伝染病 | 60 | |
| 微生物学と寄生虫学 | 40 | | | 健康に関する統計 | 100 | |
| 生化学 | 40 | | | 母子看護学Ⅰ | 150 | |
| 栄養学 | 30 | | | 内科・外科看護学Ⅱ | 200 | |
| 薬理学 | 40 | | | 臨床実習 | 200 | |
| 研究方法 | 40 | 5期 | 看護管理 | 100 | | |
| 地域保健 | 40 | | 地域管理 | 50 | | |
| 手術室看護 | 50 | | 公衆衛生看護 | 80 | | |
| 内科・外科看護学 | 200 | | 母子看護学Ⅱ | 100 | | |
| 臨床実習 | 160 | | 精神科看護学 | 80 | | |
| | | | 災害 | 50 | | |
| | | | 母乳 | 20 | | |
| | | 臨床実習 | 400 | | | |
| 総時間数・・・1,285時間 | | | 総時間数・・・2,300時間 | | | |
| 理論・・・725時間 | | | 理論・・・1,500時間 | | | |
| 実習・・・560時間 | | | 実習・・・800時間 | | | |

<結果>

・両校の総時間数に大差がある(1,015時間の差)。

・IEPROES校のものは、基礎科目が全体の60%と多い。

また、母子看護学の授業・実習とも全くない(他校は450時間)。看護管理・精神科看護についても同様である。

5. 准看護婦課程

5校・・・アンドレス・ベジョ大学看護学科、IEPROES 3校、フローレンス・ナイティンゲール校、
エル・サルヴァドル技術者養成校、軍衛生校

| アンドレス・ベジョ大学 看護学科 | | IEPROES 3校 | | ナイティンゲール校 | | 技術者養成校 | | 軍衛生校 | |
|---|---------|---------------------|---------|---|---------|---|---------|--------------------------|---------|
| 時間割り：土AM7:30 ～PM5:30, 日AM7:30 ～PM1 実習時 月～金AM7 ～PM3 | | 時間割り：月～金 AM7～PM3 | | 時間割り： 前期 AM7～PM5 後期 実習AM7～12 授業PM2 ～PM5 | | 時間割り： 前期 PM1～PM1:30 後期 実習AM7～12 授業PM1 ～PM1:30 | | 時間割り： 月～金 AM7 ～PM3 | |
| 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | 科目 | 時間 | 科目 | 時間 |
| 心理学 | 40 | 哲学・倫理学 | 20 | 解剖・生理学 | 40 | 解剖・生理学 | 75 | 一般教育 | 48 |
| 社会人類学 | 40 | コミュニケーション理論 | 20 | 微生物学・寄生虫学 | 60 | 基礎看護学 | 153 | 内科・外科看護学 | 277 |
| 生物学 | 40 | 社会保障 | 20 | 心理学 | 40 | 職業倫理 | 25 | 母性看護学 | 53 |
| 社会学 | 40 | 英語 | 20 | 職業倫理 | 40 | 内科・外科看護学 | 180 | 小児看護学 | 46 |
| 救急医療 | 80 | 内科・外科看護学 | 245 | 栄養学 | 20 | 薬理学 | 50 | 地域看護学 | 27 |
| 伝染病 | 80 | 母性看護学 | 62 | 基礎看護学 | 140 | 数学 | 35 | 臨床実習 | 1050 |
| コミュニケーション理論 | 40 | 小児看護学 | 42 | 薬理学・治療法 | 40 | 手術室看護 | 35 | 総時間数 | 1,501時間 |
| 栄養学と食事療法 | 80 | 地域看護学 | 65 | 救急医療 | 80 | 小外科学 | 30 | 理論 | 451時間 |
| 解剖・生理学 | 80 | 臨床実習 | 951 | 外科学 | 40 | 精神衛生 | 50 | 実習 | 1,050時間 |
| 環境衛生 | 40 | 総時間数 | 1,445時間 | 母子看護学 | 160 | 医療記録と保管 | 46 | | |
| 教育技術 | 40 | 理論 | 491時間 | 産婦人科学 | 180 | 伝染病学 | 60 | | |
| 薬理学 | 80 | 実習 | 951時間 | 小児学 | 60 | 地域看護学 | 185 | | |
| 職業倫理、健康に関する法律 | 40 | | | 小児看護学 | 60 | 婦人科学 | 67 | | |
| 病理学 | 80 | | | 臨床実習Ⅰ～Ⅵ | 2880 | 小児科学 | 63 | | |
| 社会保障 | 40 | | | 総時間数 | 3,900時間 | 婦人科看護 | 33 | | |
| 基礎看護学 | 80 | | | 理論 | 1,020時間 | 小児看護と母乳 | 33 | | |
| 内科・外科看護学 | 80 | | | 実習 | 2,880時間 | リハビリテーション | 50 | | |
| 地域看護学 | 80 | | | | | 栄養学 | 30 | | |
| 母性看護学 | 80 | | | | | 救急医療 | 31 | | |
| 小児看護学 | 80 | | | | | 内科・外科看護学 | 62 | | |
| 臨床実習 | 600 | | | | | 臨床実習 | 936 | | |
| 総時間数 | 1,840時間 | | | | | 総時間数 | 2,232時間 | | |
| 理論 | 1,240時間 | | | | | 理論 | 1,296時間 | | |
| 実習 | 600時間 | | | | | 実習 | 936時間 | | |

<結果>

- ・各校の総時間数を比較してみると、3,900時間～1,445時間と2,455時間もの大差がある。
- ・3,900時間は、教育期間3年の看護婦課程の養成校1校よりも多い。
- また、この時間数は1年間の教育時間としては、物理的に無理である。
- ・理論時間数・実習時間数に極端なバラツキがある。
- ・専門基礎科目の全くない学校が2校ある。

看護技術者（准看護婦）のカリキュラム

<概要>

- ・期 間：2年間（4学期）＋社会奉仕（6カ月～1年間）
- ・科目数：12科目
- ・単位数：75単位

1 単位時間数……………理論は20時間

実習は40時間とする

- ・入学資格：高卒者
- ・科目名と単位数

| 科 目 名 | 単位数 | 時 間 数 | | |
|-----------|-----|-------|-----|-----|
| | | 理論 | 実習 | 計 |
| 社会学 | 3 | 60 | 0 | 60 |
| 心理学・精神衛生 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 解剖学・生理学 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 微生物・病理学 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 伝染病 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 教育技法 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 看護倫理と法規 | 4 | 80 | 0 | 80 |
| 基礎看護学 | 8 | 85 | 175 | 260 |
| 成人看護学 | 10 | 81 | 245 | 326 |
| 母性・小児看護学Ⅰ | 10 | 81 | 245 | 326 |
| 母性・小児看護学Ⅱ | 10 | 81 | 245 | 326 |
| 地域看護学 | 10 | 72 | 280 | 352 |

プロジェクト専門家活動報告

| プロジェクト目標 | 実 態 | 活動の経過 | 成 果 | 残された課題と問題点 |
|--------------------|---|--|---|---|
| 看護教育カリキュラムの標準化を図る。 | 1995年より国立大学医学部看護学針を除き、すべての看護婦養成校が民営化された。各校のカリキュラムには大きなバラツキがあり、どのような准看護婦・看護婦を養成しようと考えているのかが明確でない。 1995年12月20日に“高等教育と看護教育”が教育省より公布され、看護教育もその法に基づき養成することが1997年10月高等保健審議会にて決定された。 そのため、すべての看護婦養成校は新教育法に基づいたカリキュラムを作成し、1997年12月27日までにJUNTAへ提出し教育省の承認を得なければ新年度よりの看護婦養成はできないこととなった。2月末現在JUNTAの情報によると当プロジェクトの対象校に対する動きは別紙のとおりである。 | 協力対象校8校の現行カリキュラムの再検討によりカリキュラムの問題点を明確にした。また9月に実施した「看護教育現行カリキュラムの検討セミナー」にて参加者による現行カリキュラムの問題提示とカリキュラム改善希望92.2%の結果が得られた。 これらの考えをベースに教育省の新教育法に沿ったカリキュラム作成を開始した。そしてカリキュラム検討委員会による15回の検討会議にてTechnico(准看護婦)の新カリキュラムを作成した。 12月のセミナーにおいて、それを出席者40名に提示し検討した。その際提案された意見をカリキュラム検討委員会にて数回にわたり再検討し修正を加えた。 完成した新カリキュラムをJUNTA, ANES, 協力対象校8施設および医療総局長へ提示し賛同を得た。この期間内にSS前の卒業生(准看護婦138名、看護学生129名、学士看護学生53名)に対し11月に2日間をかけ、一斉に能力試験を実施した。その結果からもカリキュラム標準化の必要かつ重要性を認識した。 | Technico(准看護婦)の新カリキュラムを作成した。 セミナーの収録集を作成、配布した。 | 作成された新カリキュラムをJUNTAの指導・監督のもと全看護婦校(准看護コース)が使用するかどうかを観察する必要がある。 2課程(看護婦、学士看護婦のコース)の新カリキュラム作成。 |
| 教育技法の向上 | 各校の授業を見学した際には、とても教授案を作成し、それに沿った授業をしているとは思えない授業展開をしていた。しかし、第1回セミナーで各校の現状を報告してもらった結果、協力対象校8校のうち5校が各々異なったフォームの現行教授案を提示した。 | 教育技法の実態を把握するため10月5～8日の4日間で6校の看護婦養成校を訪問し、評価表を用いて授業を見学した。その結果を取り入れた「教授案作成セミナー」を10月に3日間開催した。その際、グループワークにて単元の授業案と本時の授業案を作成した。それを各自に持ち帰らせ、新たな授業案を立案させた。 その時の指導案に沿った模擬講義を11月26、27日の2日間でを行い、それを参加者全員で授業評価表を用いて評価した。その後技術移転の定着と拡大を図るため、各施設での伝達講習会を計画している。 また3月12、13日の2日間で効果的な実習指導を行うために、学校側と臨床側との連携のあり方について、浅川短期専門家のセミナーを通して検討した。 | セミナー受講者たちによる各施設長への報告の結果および新人教師への教授案作成に関するオリエンテーションの内容から、ほぼ理論は理解できたものと考えられる。 | 移転した技術を確実に定着させるため、残された講習会への参加と定期的な巡回指導をする必要がある。 |
| 教本作成技術の向上 | 教本1冊のみがあり他にはなし。 看護教師による教本作成の経験なし。 | Technico(准看護婦)の新カリキュラムが完成したことにより、これに沿った看護分野の教本作成をめざし「教本作成委員会」をスタートさせるにあたり、まず当国の教本作成の専門家との会合を2月に実施した。 | サン・ミゲルにて4月13日に臨床側の呼びかけで「どのようにして効果的な実習指導を行うか」をテーマに臨床側と学校教師との会合を予定している。 | 教科書作成メンバーの選出にあたり、教本作成に費やす時間的問題から適当と考えられる教師が少ない。 |

セミナー開催

| セミナー名 | 期 間 | 対 象 者 | 人 数 |
|----------------------------------|-------------------------|---|------|
| 1. 看護教育現行カリキュラム検討 | 1997年9月10、11日 (2日間) | プロジェクト協力対象校各校より、 3名ずつの教師。 | 31名 |
| 2. 第1回教授案作成 セミナー | 1997年10月29～31日 (3日間) | プロジェクト協力対象校各校より、 2名ずつの教師。 | 20名 |
| 3. 第2回教授案作成 セミナー | 1997年11月26、27日 (2日間) | 第1回セミナー参加者。 養成校校長9名。 | 27名 |
| 4. 看護教育カリキュラムセミナー | 1997年12月17、18日 (2日間) | プロジェクト協力対象校各校より、 2名ずつの教師。 全国レベルの各県代表看護婦22名。 看護職能管理会2名。 看護婦協会1名。 | 45名 |
| 5. 将来の看護に向けて 求められる看護教師 の資質 | 1998年3月12、13日 (2日間) | 看護教師35名。 臨床看護婦33名。 | 68名 |
| 合 計 | | | 191名 |

附属資料

- ① ミニッツ (写)
- ② エル・サルヴァドル共和国の概要
- ③ 高等教育法とその一般法 (エル・サルヴァドル国文部省)
- ④ 供与機材の貸借契約書



① ミニッツ (写)

THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF EL SALVADOR
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE PROJECT ON STRENGTHENING OF NURSING EDUCATION

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Ms. Yayoi Tamura, visited the Republic of El Salvador from March 21, 1998 to March 30, 1998 for the purpose of reviewing the activities concerning the Project on Strengthening of Nursing Education in El Salvador (hereinafter referred to as "the Project"), and discussing the future implementation plan of the Project.

During its stay in the Republic of El Salvador, the Team exchanged opinions and had series of discussion with Salvadorian authorities concerned about the activities and implementation of the Project.


As a result of the meeting, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

San Salvador, March 27th, 1998

田村 やよひ

Dr. Yayoi Tamura
Leader,
Japanese Consultation Team
Japan International Cooperation Agency




Eduardo Interiano
Minister,
Ministry of Public Health and Social Welfare
The Republic of El Salvador

ATTACHED DOCUMENT

I. GENERAL REVIEW

The Project started from June 1st of 1997 and was scheduled to have a duration of five (5) years for the purpose to contribute to the medical services in El Salvador by improving the quality and charge of nurses.

In accordance with the Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") signed on February 19th, 1997 (by JICA and the Ministry of Public Health and Social Welfare), JICA has dispatched four (4) long term experts and one (1) short term expert to El Salvador, and has accepted three (3) counterparts for technical training in Japan, and also has donated the equipment equivalent to four hundred thousand US dollars (\$400,000) for smooth implementation of the Project (ANNEX-1).

From El Salvador side, the Ministry of Public Health and Social Welfare also assigned three (3) Salvadorian counterparts and three (3) sub-counterparts in the field of curriculum design to the Project (ANNEX-2).

Based on the common understanding of the present situation of the Project, both sides discussed future plans and matters to be solved for the smooth implementation of the Project.

II. SUMMARY OF DISCUSSIONS

In accordance with the R/D, both sides agreed upon the following matters:

1. Review of the activities (June, 1997 - March, 1998)

The technical cooperation activities under the Project have been carried out in Japanese Fiscal Year 1997 as shown in ANNEX-3. In general, the Project is considered to be advancing successfully.

2. Plan of activities for Japanese Fiscal Year 1998

According to the present state of progress and other conditions of the Project, both

Y.J

B

sides jointly created the Tentative Program of Activities for Japanese Fiscal Year 1998 as shown in ANNEX-4.

3. Matters to be solved

In order to further promote the project activities, both side confirmed followings to be solved.

(1) Ministry of Public Health and Social Welfare will guarantee that the objective sites of cooperation is authorized as the objective sites of the Project in coordination with Superior Council of Public Health, through Professional Nurse Control Council. If any of the objective sites of cooperation is not authorized as nursing educational institution by Ministry of Education, these schools could not participate in the project activities until they are authorized.

(2) Ministry of Public Health and Social Welfare will recommend to the objective sites of cooperation without full-time teacher nurses to appoint full-timers for effective and successful implementation of the Project.

(3) Ministry of Public Health and Social Welfare will supervise the objective sites of cooperation to observe the contract concerning the lending equipments for proper management and maintenance.

(4) Japanese Government will take necessary measures through JICA to supplement a portion of local cost expenditure for construction of the nursing teachers' training facility upon official request from the Government of El Salvador.

III. LANGUAGE PREVALENCE

This document is prepared in both English and Spanish. If there is a case of having different interpretation, the English version must prevail on the Spanish one.

47

5

ANNEX-1:

1. List of Japanese Experts Dispatched by JICA (name, field, term)

a. Long-term experts

| | | | |
|-----|----------------------|-----------------------------|-----------------------|
| (1) | Ms. Yoshiko Sugawara | Leader | 1997.06.17-1999.06.16 |
| (2) | Mr. Seigo Matsumoto | Liaison Officer | 1997.06.17-1999.06.16 |
| (3) | Ms. Masako Ogawa | Nursing Curriculum | 1997.06.17-1998.06.16 |
| (4) | Ms. Yumiko Murakami | Nursing Education (Surgery) | 1998.03.05-2000.03.04 |

b. Short-term expert

| | | | |
|-----|-------------------|-------------------|-----------------------|
| (1) | Ms. Akiko Asakawa | Nursing Education | 1998.03.05-1998.03.17 |
|-----|-------------------|-------------------|-----------------------|

2. List of Salvadorian Counterpart Personnel Sent to Japan (name, field, term)

| | | | |
|-----|---------------------------------------|-------------------|-----------------------|
| (1) | Ms. Elena Elizabeth Reyes de Guzman | Nursing Education | 1997.06.10-1997.07.04 |
| (2) | Ms. Lilian Elizabeth Posada de Ayala | Nursing Education | 1998.03.02-1998.06.09 |
| (3) | Ms. Delmy Zonia Dominguez de Figueroa | Nursing Education | 1998.03.02-1998.06.09 |

3. List of Equipment Provided by JICA

| | Quantity |
|--|----------|
| (1) Human skeleton model | 8 |
| (2) Human anatomical model | 8 |
| (3) Heart model | 8 |
| (4) Development model of fetus | 8 |
| (5) Human anatomical wall chart | 8 |
| (6) Hospital bed for training and screen | 24 |
| (7) Baby bed | 8 |
| (8) Mannequin for training | 8 |
| (9) Blood collection and intravenous injection simulator | 8 |
| (10) Training model to catheter of urine and stool | 16 |

Y.J.

B

| | | |
|------|-----------------------------------|-----|
| (11) | Pregnancy model | 8 |
| (12) | Simulator for first aid | 8 |
| (13) | Simulator of baby doll | 8 |
| (14) | Stethoscope | 56 |
| (15) | Sphygmomanometer | 56 |
| (16) | Copy machine | 3 |
| (17) | Video set | 9 |
| (18) | Over head projector | 15 |
| (19) | Microphone system | 8 |
| (20) | Automatic high speed printer | 2 |
| (21) | Camera | 8 |
| (22) | White board | 8 |
| (23) | Electric typewriter | 2 |
| (24) | Four wheel traction jeep | 1 |
| (25) | Fax | 4 |
| (26) | Personnel Computer | 5 |
| (27) | Bed side cabinet | 8 |
| (28) | Height measures | 8 |
| (29) | Books | 524 |
| (30) | Basic surgery operation equipment | 9 |

G.J.

B

ANNEX-2: The List of Salvadorian Counterparts and Sub-counterparts (name, field)

1. Counterparts and Sub-counterparts

a. Counterparts

- | | |
|---|-----------------------|
| (1) Ms. Elena Elizabeth Reyes de Guzman | Technical Coordinator |
| (2) Ms. Consuelo Olano de Erias | Nursing Education |
| (3) Ms. Sonia Margarita Centeno | Nursing Education |

b. Sub-counterparts in the field of curriculum design

- | | |
|----------------------------------|---|
| (1) Ms. Angela Elias Marroquin | (University of El Salvador) |
| (2) Ms. Reyna Emperatriz de Cruz | (IEPROES) |
| (3) Ms. Virginia Azucena de Cruz | (IEPROES, School of Professional Nurse of San Salvador) |

2. Administrative Personnel

- | | |
|---|----------------|
| (1) Ms. Meguelina Soriano de Mariana | Secretary |
| (2) Ms. Marta Alicia Rodriguez de Angel | Cleaning stuff |
| (3) Mr. Enrique Fuentes | Driver |

G.J.

A

ANNEX-3: The technical cooperation activities in Japanese Fiscal Year 1997

1. Survey

- a. Survey of the actual situation of 8 objective sites of cooperation, such as facilities, equipment, educational materials, books, teacher nurses and staff.
- b. Survey of the educational method of teacher nurses of the objective sites cooperation.
- c. Survey of ability of the graduates of 8 objective sites of cooperation in the tree academical level.

2. Seminar and Workshop

- a. Curriculum Design with 31 attendance.
- b. Making of Educational Plan (Faze I) with 20 attendance.
- c. Presentation of Educational Plan (Faze II) with 27 attendance.
- d. Curriculum Presentation of technician course with 45 attendance.
- e. Presentation of Development of Nurse as Human Resource in El Salvador with 75 attendance.

3. Print and distribution of Memories

- a. 50 memories of Workshop about analysis of present curriculum for nursing education.
- b. 200 memories of Workshop about making of educational plan and its application.
- c. 300 memories of International Seminar of Development of Nurse as Human Resource in El Salvador (in press).

4. Meeting and Committee

- a. Meeting of Director and Managers of 8 objective sites of cooperation
- b. Curriculum Analysis Committee
- c. Meeting with the Professional Nurse Control Council and the Salvadorian Nursing Association

4-7

h

**TENTATIVE PROGRAM OF ACTIVITIES
PROJECT ON THE STRENGTHENING OF NURSING EDUCATION**

| COMPONENT | ACTIVITIES | 1998 | | | | | | | | | | | | 1999 | | | | |
|------------------------------|--|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| | | JAN. | FEB. | MAR. | APR. | MAY | JUN. | JUL. | AUG. | SEP. | OCT. | NOV. | DIC. | JAN. | FEB. | MAR. | APR. | |
| ADMINISTRATION MANAGEMENT | VISITING SURVEY OF NURSING SCHOOLS OF THE PROJECT | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | MEETING WITH JAPANESE EXPERT *Nursing Unit *General Director *Directors of Nursing schools of the Project *Salvadorian Nursing Association and Professional Nurse Control Council | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PROGRAM | PUBLICITY OF PROJECT ACTIVITIES EVALUATION OF ACTIVITIES ELABORATION OF ANNUAL ACTIVITIES PROGRAM 1999 REQUEST OF JAPANESE EXPERTS FOR 1998 ELABORATION OF ANNUAL REPORT STUDY OF EVALUATION METHOD OF THE PROJECT | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | DISPATCH OF JAPANESE EXPERT (LONG TERM) * Project Leader *Coordinator *Expert of Nursing Education (curriculum) *Expert of Nursing Education (surgery and teaching material) *Expert of Nursing Education (Public Health) DISPATCH OF JAPANESE EXPERT (SHORT TERM) *Expert (Policy and Human Resource Development) *Expert (obstetrics) *Expert (evaluation of Nursing Education) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | REGISTRATION AND DISTRIBUTION OF EQUIPMENT OF 1997 REGISTRATION AND DISTRIBUTION OF EQUIPMENT OF 1998 PLANNING OF TEACHING MATERIAL AND EQUIPMENT OF 1999 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

89

10

| COMPONENT | ACTIVITIES | 1998 | | | | | | | | | | | | 1999 | | | | |
|---------------------|--|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| | | JAN. | FEB. | MAR. | APR. | MAY | JUN. | JUL. | AUG. | SEP. | OCT. | NOV. | DIC. | JAN. | FEB. | MAR. | APR. | |
| | PLANNING OF TRAINING PROGRAM FOR 1999 SELECTION OF TRAINEE OF 1998 TRAINING IN JAPAN 1997 TRAINING IN JAPAN 1998 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TECHNOLOGY TRANSFER | SEMINARS AND WORKSHOPS ON: *Curriculum desing *Planning of Education method (advice and after care) *Practice method in classroom *Elaboration of audiovisual material *Teaching and learning method on the job -Fortification of nursing service to adult -Fortification of nursing service in Public Health -Fortification of nursing service in obstetrics -Elaboration of textbooks | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| INVESTIGATION | SURVEY ON TEACHING SKILL OF NURSING | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TEXTBOOKS | SURVEY ON NURSING SKILL AT THE GRADUATION | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JAPANESE MISSION | PRODUCTION OF TEXTBOOKS | | | | | | | | | | | | | | | | | |

Y.J

1

**ACTA DE DISCUSIONES
ENTRE EL EQUIPO JAPONES DE PLANIFICACION
Y
LAS AUTORIDADES CONCERNIENTES
DEL GOBIERNO DE LA REPUBLICA DE EL SALVADOR
SOBRE LA COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA
EL PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DE EDUCACION
PARA LA ENFERMERIA**

El equipo Japonés de Planificación (en adelante denominado "El Equipo") organizado por la Agencia de Cooperación Internacional de Japón (en adelante denominado "JICA") y encabezado por la Dra. Yayoi Tamura, visitó la República de El Salvador del 21 al 30 de marzo de 1998, con el propósito de revisar las actividades del Proyecto de Fortalecimiento de Educación para la Enfermería(en adelante denominado "El Proyecto") y discutir el futuro plan de implementación del Proyecto.

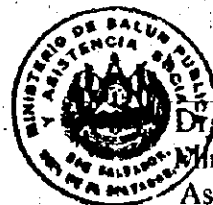
Durante su estadía en la República de El Salvador, el Equipo intercambió opiniones y realizaron una serie de discusiones sobre las actividades ejecutadas y orientación del proyecto con las autoridades.

Como resultado de las reuniones, ambas partes acordaron los asuntos referidos en el Documento adjunto.

San Salvador, 27 de marzo de 1998

田村やよい

Dra. Yayoi Tamura
Jefa Equipo Japonés de Planificación
Agencia de Cooperación Internacional
de Japón.



Eduardo Interiano
Ministro de Salud Pública y
Asistencia Social
República de El Salvador.

DOCUMENTO ADJUNTO

I. Antecedente.

El Proyecto comenzó el primero de junio de 1997 y fue programado para cinco(5) años de duración con el propósito de contribuir a los servicios de salud en El Salvador, mejorando la calidad de formación y desempeño de enfermería.

De acuerdo al Memorándum de entendimiento(en adelante denominado "El Memorándum") firmado el 19 de febrero de 1997 entre Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) y el Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social. JICA ha enviado a El Salvador cuatro(4) Expertos de largo plazo y una(1) de corto plazo, y ha aceptado tres(3) contrapartes para capacitar en Japón y también a entregado como donación el equipo equivalente a cuatrocientos mil dólares (\$400,000.00) para ejecución del Proyecto(ANEXO - 1).

De parte de El Salvador, el Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social ha asignado tres (3) Contraparte y tres (3) Subcontraparte de Campo de Curriculum para el Proyecto (ANEXO 2).

A base del entendimiento mutuo de la situación actual del proyecto, ambas partes discutieron sobre el futuro plan y acuerdos para la mejor ejecución del Proyecto.

II. Resumen de Discusiones.

De acuerdo al Memorándum, ambas partes acordaron los siguientes puntos:

1.- Revisión de las actividades(junio del 1997 - marzo del 1998).

Las actividades de cooperación técnicas del proyecto que se han ejecutado durante el año fiscal japonés 1997 está en ANEXO 3. En general se puede considerar que el proyecto esta avanzando satisfactoriamente de acuerdo a objetivos .

2.- Plan de actividades del año fiscal japonés 1998

De acuerdo al estado actual del avance y otras condiciones del proyecto ambas partes han elaborado conjuntamente el programa tentativo de actividades para el año fiscal japonés 1998 está descrito en el ANEXO 4.

3.- Acuerdos.

Para promover las futuras actividades del proyecto ambas partes han acordado lo siguiente:

- (1) El Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social en coordinación con el Consejo Superior de Salud Pública a través de la Junta de Vigilancia de la Profesión de Enfermería, garantizará que los Institutos Formadores de Recursos Humanos de Enfermería estén legalmente constituidos para ser beneficiados por el Proyecto en caso contrario quedan fuera del mismo.

- (2) El Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social recomendará contratar enfermeras docentes a tiempo completo a los Institutos beneficiados del proyecto, para mejorar la educación en enfermería.
- (3) El Ministerio de Salud Pública y Asistencia Social vigilará el cumplimiento del Contrato de Concesión de Bien Público suscrito con las Instituciones Beneficiarias del Proyecto.
- (4) El Gobierno de Japón tomará medidas necesarias a través de JICA para suplir una parte del costo local en la construcción de sede de Proyecto para capacitar enfermeras docentes según solicitado por el Gobierno de El Salvador.

III. Prevalencia de Idioma

Este documento se ha preparado en idioma inglés y español. En caso de que surja alguna discrepancia de interpretación, la versión en inglés prevalece.

8.7

B

ANEXO I

1. Lista de Expertos Japoneses enviados por JICA (nombre, área, tiempo)

a. Experto de largo plazo

| | | |
|---------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| (1) Sra. Yoshiko Sugawara | Jefa | 1997.06.17 - 1999.06.16 |
| (2) Sr. Seigo Matsumoto | Coordinador | 1997.06.17 - 1999.06.16 |
| (3) Sra. Masako Ogawa | Curriculum en Enfermería | 1997.06.17 - 1998.06.16 |
| (4) Sra. Yumiko Murakami | Educación en Enfermería | 1998.03.05 - 2000.03.04 |

b. Experto de corto plazo

| | | |
|------------------------|----------------------------|-------------------------|
| (1) Sra. Akiko Asakawa | Educación en Enfermería | 1998.03.05 - 1998.03.17 |
|------------------------|----------------------------|-------------------------|

2. Lista de Contraparte Salvadoreña capacitadas en Japón (nombre, área, tiempo)

| | | |
|--|-------------------------|-------------------------|
| (1) Sra. Elena Reyes de Guzmán | Educación en Enfermería | 1997.06.10 - 1997.07.04 |
| (2) Sra. Lilian Posada de Ayala | Educación en Enfermería | 1997.03.02 - 1998.06.09 |
| (3) Sra. Delmy Zonia Domínguez de Figueroa | Educación en Enfermería | 1998.03.02 - 1998.06.09 |

3. Lista de Equipo donado por JICA

| | Cantidad |
|--|----------|
| (1) Esqueleto con base metálica | 8 |
| (2) Modelo anatómico | 8 |
| (3) Modelo de Corazón | 8 |
| (4) Modelos de las Etapas del Desarrollo del Feto | 8 |
| (5) Figuras Atlas de Anatomía para pared | 8 |
| (6) Cama con colchón y biombo de 3 compartimientos | 24 |
| (7) Cuna plástica para recién nacido | 8 |
| (8) Maniquí para técnicas básicas | 8 |
| (9) Simulador de brazo para toma de muestra de sangre e inyectable intravenoso | 8 |
| (10) Simulador para enemas y cateterismo | 16 |
| (11) Maniquí de mujer embarazada y feto | 8 |
| (12) Maniquí para resucitación cardiorespiratorio de adultos | 8 |
| (13) Maniquí para resucitación de neonato | 8 |
| (14) Estetoscopio | 56 |
| (15) Tensiómetro | 56 |
| (16) Fotocopiadora | 3 |
| (17) Videograbadora | 9 |
| (18) Retroproyector | 15 |
| (19) Micrófono sin cordón | 8 |
| (20) Impresora | 8 |
| (21) Cámara | 8 |

Y. J.

3

| | |
|---|-----|
| (22) Pizarrón Blanco | 8 |
| (23) Máquina de escribir eléctrica | 8 |
| (24) Vehículo | 1 |
| (25) Faximili | 4 |
| (26) Computadora personal | 5 |
| (27) Mesa para alimentación de paciente | 8 |
| (28) Atril metálico con 5 rodos | 8 |
| (29) Libros | 524 |
| (30) Equipo básico de operación | 9 |

J.J

B

ANEXO 2

Lista de Contraparte y Subcontraparte Salvadoreña(nombre y área)

1. Contraparte y Subcontraparte

a. Contraparte:

- | | |
|--|-------------------------|
| (1) Sra. Elena Elizabeth Reyes de Guzmán | Coordinadora Técnica |
| (2) Sra. María Consuelo Olano de Elías | Educación en Enfermería |
| (3) Srita. Sonia Margarita Centeno | Educación en Enfermería |

b. Subcontraparte para Diseño Curricular:

- | | |
|-----------------------------------|--|
| (1) Sra. Angela Elías Marroquín | Enfermera Docente de la Universidad de El Salvador |
| (2) Sra. Reyna Emperatriz de Cruz | Instituto Especializado de Educación Superior de Profesionales de la Salud de El Salvador, San Salvador |
| (3) Sra. Virginia Azucena de Cruz | Directora del Instituto Especializado de Educación Superior de Profesionales de la Salud de El Salvador, San Salvador. |

2. Personal Administrativo:

- | | |
|--|------------|
| (1) Sra. Miguelina Soriano de Mariona | Secretaria |
| (2) Sra. Marta Alicia Rodríguez de Angel | Ordenanza |
| (3) Sr. Enrique Fuentes | Motorista |

Y. J

h

ANEXO 3

Las actividades de Cooperación Técnica ejecutadas en el año fiscal japonés 1997

1. Investigación:

- a. Diagnóstico de la situación actual de las 8 Instituciones Formadoras Beneficiarias del Proyecto sobre instalaciones, equipo material didáctico, libros, docentes, personal administrativo y estudiantes.
- b. Diagnóstico de metodología educativa aplicada por enfermeras docentes de las Instituciones Beneficiarias del Proyecto.
- c. Diagnóstico de conocimiento de egresadas de enfermería de los 3 niveles académicos.

2. Seminarios y Talleres:

- a. Diseño Curricular con 31 participantes.
- b. Planeamiento Didáctico (fase I) con 20 participantes.
- c. Presentación de Planeamiento Didáctico (fase II) con 27 participantes.
- d. Presentación del Curriculum a Nivel Técnico de Enfermería con 45 participantes.
- e. Proyección de desarrollo de los Recursos Humanos de Enfermería en El Salvador con 75 participantes.

3. Elaboración, reproducción y distribución de documentos:

- a. 50 Memorias de Taller sobre Análisis de Modelo de Curriculum de Educación en Enfermería
- b. 200 Memorias de Taller sobre Planeamiento Didáctico y su aplicación
- c. 300 Memorias de Seminario Internacional "Proyección de Desarrollo de los Recursos Humanos de Enfermería en El Salvador" (en proceso).

4. Reuniones Administrativas y Técnicas:

- a. Reunión con los Directores de las 8 Instituciones Formadoras Beneficiarias del Proyecto.
- b. Comité de Diseño Curricular
- c. Reunión con la Junta de Vigilancia de la Profesión de Enfermería y la Asociación Nacional de Enfermeras Salvadoreñas.

8.7

△

PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DE EDUCACION PARA ENFERMERIA
CRONOGRAMA DE ACTIVIDADES

| COMPONENTE | ACTIVIDADES | 1998 | | | | | | | | | | | | 1999 | | | | | |
|----------------|---|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|--|
| | | ENE. | FEB. | MAR. | ABR. | MAY. | JUN. | JUL. | AGO. | SEP. | OCT. | NOV. | DIC. | ENE. | FEB. | MAR. | ABR. | | |
| ADMINISTRATIVO | VISITA DE MONITOREO A INSTITUCIONES FORMADORAS DE RECURSOS HUMANOS DE ENFERMERIA | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | REUNIONES CON: *Unidad de Enfermería *Dirección General *Directoras de Instituciones Formadoras *ANES Y JVPE | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PROGRAMACION | DIVULGACION DE AVANCE DEL PROYECTO | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | EVALUACION DE AVANCE DEL PROYECTO (Cooperación Externa) ELABORACION DE PLAN ANUAL OPERATIVO 1999 SOLICITUD DE EXPERTOS JAPONESES 1998 ELABORACION DE INFORME ANUAL DISEÑO DEL SISTEMA DE EVALUACIÓN TÉCNICA DE AVANCE DEL PROYECTO. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PROGRAMACION | ASESORIA DE EXPERTOS JAPONESES DE LARGO PLAZO: *Jefe de grupo Japones *Coordinador | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Experta de Educación en Enfermería (curriculum) *Experta de Educación en Enfermería (cirugía y Material Didáctico) *Expertos de Educación en Enfermería (Salud Pública) ASESORIA DE EXPERTOS DE CORTO PLAZO: *Experto (Política, Desarrollo del Recurso Humano de Enfermería) *Experto (Materno Infantil) *Experto (Evaluación Pedagógica en Enfermería) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | REGISTRO Y DISTRIBUCION DE EQUIPO 1997 REGISTRO Y DISTRIBUCION DE EQUIPO 1998 SELECCION DE MATERIAL Y EQUIPO DIDACTICO 1999 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

J.J

8

② エル・サルヴァドル共和国の概要

エル・サルヴァドル共和国の概要

| | |
|-----------|------------------------------|
| 国土総面積 | 21,000 平方キロメートル |
| 総人口 | 540 万人 (首都部人口は 49%) |
| 人口増加率 | 年 2.5 % |
| 識字率 | 70% (読み書きに問題があるのは女性と地方の住民) |
| 一人当たり GNP | 1,200 ドル (低位中所得国) 1995 年国連統計 |

保健関係統計

| | |
|-----------------|----------------------|
| 平均余命 | 64.4 才 (1994 年) |
| 乳児死亡率 | 41 人 / 1000 (1994 年) |
| 乳児死亡原因 (1996 年) | |

1. 早産による低体重、未熟出生
2. 先天異常
3. 敗血症
4. 窒息
5. 肺炎

| | |
|--------|-------------------------|
| 妊産婦死亡率 | 68 人 / 出生 10 万 (1996 年) |
|--------|-------------------------|

死因分類

疾病傾向

| | |
|----------------|------------------|
| 1. 肺炎及び気管支肺炎 | 1. 急性呼吸器感染症 |
| 2. 頭部外傷 | 2. 消化器寄生虫症 |
| 3. 部位の記載がない感染症 | 3. 消化器感染症 |
| 4. 脳血管障害 | 4. 尿路感染症 |
| 5. 早産出生 | 5. 肺炎及び気管支肺炎 |
| 6. 慢性腎障害 | 6. 膿痂疹 |
| 7. 有毒物質による中毒 | 7. 胃炎及び十二指腸炎 |
| 8. 心不全 | 8. 急性及び化膿性中耳炎 |
| 9. 心筋梗塞 | 9. 喘息・特定なしの気管支痙攣 |
| 10. 糖尿病 | 10. 特定なしの貧血 |

上水道の普及 55% (地方は普及が遅れている)

下水道の普及 67% (遠隔地は人口の 50% 以上がトイレの設備がない)

医療施設

1996年より地方の医療サービスを充実させることを目的にして、従来の5保健区分を18に変更した。

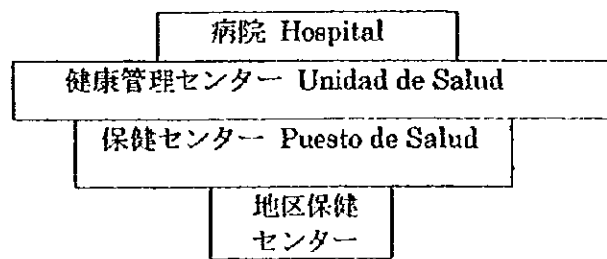
18区分の内訳は、エル・サルヴァドル13県、首都サン・サルヴァドルを5区に分け、合計18保健区とした。

同時に、医療施設の再編成が行なわれ、それまでの診療所を病院に格上げし、診療所は廃止した。又、保健センターの一部を保健管理センターとして整備した。

病院本来の機能を確立させるために、プライマリー・ヘルス・ケアのシステム強化を図った。

健康管理センターと保健センターとが、住民の健康に関する窓口となり（一次医療）、そこでの診療の結果により、医師の紹介で一般病院へ行き（二次医療）、そこでの対応が不可能なケースは専門病院へ紹介される（三次医療）。

これにより、住民が受ける医療サービスのしくみは明確になった。



| | |
|-----------|-------|
| 病院数 | 30施設 |
| 健康管理センター数 | 220施設 |
| 保健センター | 159施設 |
| *地区保健センター | 8施設 |

*サン・サルヴァドルのみ

看護の現状

(1994年厚生省統計)

- 看護人材数 厚生省関係 4,060人 その他 3,458人 合計 7,518人
准看護婦の割合—70% 看護婦の割合—30%
- 看護人材配置 病院集中の傾向があり、約75%は病院勤務 地域には25%内外が勤務

— 看護婦養成制度

1997年までは、准看護婦、専門看護婦、学士看護婦の3レベルがあり、進学コース(准→専、専→学士)もあったが、1996年に公布された「高等教育法」により、1998年からは、テクニコ(2年)—准看護婦、テクノロゴ(3年)看護婦、リッセンシアード(5年)学士看護婦の3コースとなり、入学資格はいずれも高等学校卒業者とされ、全てに学内教育後の社会奉仕(6~12ヶ月)が義務付けられる。

又、進学コースは国立大学医学部看護学科(看→学士)を除いて他は廃止となり、単位を満たすことにより看護婦及び学士看護婦への道が開れる。

— 看護婦養成校

| <u>1997年</u> | <u>1998年(予測)</u> |
|------------------|------------------|
| 国立・・・1校(学士看護婦) | 国立・・・1校 |
| 私立・・・7校(含学士養成1校) | 私立・・・9校(含学士養成3校) |
| 軍・・・1校 | 軍・・・1校(学士養成も開始) |

*私立校の中には地方の分校があるものが2校

- 卒業生数 これまでの平均は1年間で看護婦 約120名、准看護婦 約240名。1997年は需要を上回る。

— 専門看護婦養成：行なわれていない

— 病院勤務体制

原則は8時間勤務の1日3交代だが、夜間の交代時間帯における治安問題があり、12時間勤務の2交代が行なわれている施設が多い。

夜勤手当、危険手当、特殊勤務手当てなどの給与外の支給はない。

— 給与

| | | | |
|-------|-----|-------|------------------|
| 厚生省職員 | ベース | 准看護婦 | 2,925コロン(約330ドル) |
| | | 専門看護婦 | 3,250コロン(約370ドル) |
| | | 学士看護婦 | // |
| | | | 役職により、増額される |

高等保健審議会

エル・サルヴァドル共和国

1997年 10月 10日 サン・サルヴァドル

高等保健審議会は、看護職能会会長に宛てて以下を通告する。

- 1) 1998年1月より、看護婦養成施設は、テクニコ・テクノロゴ・リッセンシアトゥラ(学士)の3レベルで養成し、指定された条件を満たすこと。
- 2) 1998年より、現在の准看護婦養成コースは、認可されない。
- 3) 最高保健審議会が出した高等教育法による新教育体制への2年間の移行期間は、1997年をもって終了する。これ以後は新システム以外の養成は、たとえ手続き中であっても旧システムによるものは認められない。
- 4) 看護職能会は、1997年12月までに卒業した者の資格は旧制度であっても認めるが、高等学校卒業を条件にする。准看護婦であっても、同様に高等学校卒業でなければならない。
- 5) 従来からの看護人材養成校、又、これから開設する施設の全てが、高等教育法の定めるところにより、6ヶ月から12ヶ月の社会奉仕を実施する。
- 6) 高等教育法がそれぞれの3養成コースを定めるところによって、特別なコース(進学コース)は廃止される。又、准看護婦は養成されない。全てのコースは高等学校卒業を入学条件とする。
- 7) 看護職能会は、公認されない養成施設の卒業生には資格を認めない。

以上

CONSEJO SUPERIOR DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE EL SALVADOR, C.A.

San Salvador, 10 de Octubre de 1997

1.....2

LICENCIADA
DOLORES ARMIDA DE SAYES
PRESIDENTA JUNTA DE VIGILANCIA
DE LA PROFESION EN ENFERMERIA
Presente.

Por medio de la presente transcribo a ustedes el acuerdo tomado por este Consejo en el literal g) del Punto III de su Quincuagésimaprimer Sesi3n Ordinaria, que literalmente dice:

"En base a las facultades que le confiere el Art. 14 literal c) del C3digo de Salud se ACUERDA:

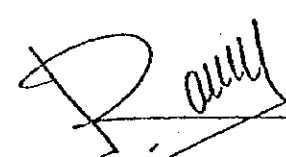
1) Que a partir de Enero de mil novecientos noventa y ocho, los grados acad3micos que deben ofrecer las Instituciones formadoras del Recurso de Enfermeria deber3n ser: T3cnico en Enfermeria, Tecn3logo en Enfermeria y Licenciatura en Enfermeria. Por lo tanto, todas las Instituciones deber3n cumplir con los requisitos exigidos por el Ministerio de Educaci3n y el C3digo de Salud, para el funcionamiento de instituci3n formadora. 2) Como consecuencia de lo anterior, los cursos de Auxiliares de Enfermeria, impartidos por las diferentes Instituciones quedan sin valid3z a partir de Enero de mil novecientos noventa y ocho. 3) El Consejo Superior de Salud P3blica, tomando en cuenta que la Ley de Educaci3n Superior ha dado un per3odo de dos a3os para la adecuaci3n de los planes de estudio, el cual vence en Diciembre de mil novecientos noventa y siete. (Art3culo sesenta y tres y sesenta y cuatro de la Ley), no autorizar3 a Instituciones con planes de estudio antiguos y que no sean los exigidos por la Ley en menci3n, est3n en tr3mite o no. 4) Que la Junta de Vigilancia de la Profesi3n en Enfermeria, 3nicamente autorizar3 para el ejercicio de la Profesi3n a las personas que realizaron estudios con planes antiguos antes del treinta y uno de Diciembre del corriente a3o, y que a su vez, cumplan con los requisitos establecidos en el C3digo de Salud, as3 como el haberse graduado de Bachiller previamente...

CONSEJO SUPERIOR DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE EL SALVADOR, C.A.

a la obtención de un grado académico en Enfermería, inclusive el de Auxiliares de Enfermería. 5) Que para la autorización de las diferentes instituciones formadoras del Recurso de Enfermería ya existentes, y las que en un futuro se constituyan; deberán incluir en sus planes de estudio la realización del Servicio Social, (seis meses mínimo, máximo un año). Así como las demás exigencias que la Ley de Educación Superior requiere. 6) Que los planes de estudio "especialidades", que ofrecen las Instituciones formadoras del Recurso de Enfermería para nivelar a Tecnológicos, ya no tendrán validéz a partir de Enero de mil novecientos noventa y ocho; en vista que los grados académicos serán diferentes, y que los cursos de Auxiliares de Enfermería NO GENERAN unidades valorativas, por tanto el nivel de ingreso para cualquier grado académico de Enfermería, tiene que ser Bachiller (Artículo Catorce, Literal "a" de la Ley de Educación Superior). 7) Que la Junta de Vigilancia de la Profesión en Enfermería, no autorizará para el ejercicio de la Profesión a las personas que se hayan graduado de Instituciones no autorizadas, tanto por el Ministerio de Educación, así como por el Consejo Superior de Salud Pública.

Lo que hago de su conocimiento para los efectos consiguientes.

DIOS UNION LIBERTAD


JORGE ALBERTO RAMOS MENJIVAR
Secretario



エル・サルヴァドル国における看護婦養成の経緯

1926年国立サン・サルヴァドル看護婦養成校が創設され、1950年には国立サンタ・アナ看護婦養成校、1957年に国内5ヵ所において准看護婦養成が開始された。さらに、1982年に国立サン・ミゲル校において看護婦養成が行われた。

しかし、1979年以来の内戦により、1985年には各学校において入学を停止した。したがって、これ以降、看護婦の養成は国立大学医学部看護学科と私立の看護婦・准看護婦養成校でのみ行われていたが、養成数が医療機関の需要数を満たさないこと、また、大学や私学の教育の質低かったこともあり、1989年国立サン・サルヴァドル准看護婦養成校が再開された。そして、1992年の内戦終了後、国立サンタ・アナ看護婦養成校、国立サン・ミゲルおよび国立ソン・ソナテ准看護婦養成校が再開された。

1994年厚生省は、「国家機構近代化」の国策のもとに政府職員の削減を図るため人材養成局を廃止し、看護婦の養成を民営化することにした。そして、1995年10月13日 SODEPROE との間に2年間の契約を結び、看護教育を委託した。

学校の設置基準等に関する規定は、教育省との間で、1991年発足した合同委員会にて5年間をかけ作成された1996年9月に、国会で承認（決裁）を得た“高等教育法とその一般法”が教育省より公布された。

看護教育もその法に基づき養成することが、JUNTA DE VIGILANCIA DE LA PROFESION DE ENFERMERIA（看護職管理会）より提案され、高等保健審議会にて決定された。これは、1998年1月2日をもって施行されるため、1997年12月27日迄に各看護婦養成校は、教育法に基づいた新カリキュラムを看護職管理会に提出しなければ、来年度の看護婦養成が出来ないことになる。